

平成30年度(2018年度)

## 事業報告及び決算概要報告

◆ 沿革

- I 法人概要
- II 法人会議及び監査の実施状況
- III 各部門の教育推進の概況 (事業報告)
- IV 決算概要報告
  - ・ 決算概要説明等

<付 表>

- ・ 資金収支計算書 (第1表)
- ・ 資金収支内訳表 (第2表)
- ・ 活動区分資金収支計算書 (第3表)
- ・ 事業活動収支計算書 (第4表)
- ・ 事業活動収支内訳表 (第5表)
- ・ 貸借対照表 (第6表)
- ・ 財産目録 (第7表)

V 監査報告書

- ・ 学園監事監査報告書
- ・ 公認会計士監査報告書

【参 考】

- ・ 「学生・生徒・園児数」(令和1年5月1日 現在)

学校法人純美禮学園

法人本部

◆ 沿革

年	月	事	項
大正 7 年	4 月	松村裁縫速進教授所開設	大津市北国町（現 三井寺町）
8 年	4 月	大津裁縫速進教授所と改称	
15 年	4 月	大津市蔵橋町（現 浜大津二丁目）へ教授所移転	
昭和 3 年	4 月	大津裁縫女学校開校	校長に中野富美就任
6 年	4 月	大津高等裁縫女学校に改組	同校専攻科卒業者に対し 小学校裁縫専科正教員無試験検定資格が、県知事から付与される
12 年	4 月	大津市梅林町に新築移転	
19 年	4 月	財団法人純美禮学園に改組	理事長に中野富美就任 滋賀高等女子実業学校と校名変更
23 年	4 月	学制改革に伴い新制高等学校に改組	大津家庭高等学校に校名変更
26 年	4 月	財団法人純美禮学園を学校法人純美禮学園に組織変更	理事長に中野富美就任
36 年	4 月	滋賀女子高等学校に校名変更	
37 年	12 月	滋賀女子高等学校	大津市朝日が丘に校舎新築
38 年	11 月	第二期工事	講堂兼体育館竣工
41 年	3 月	理事長に松村信蔵就任	
43 年	8 月	第三期工事竣工	梅林校舎を廃し朝日が丘に校舎統合
45 年	4 月	滋賀女子短期大学 開学	服飾学科、幼児教育学科の二学科設置 滋賀女子高等学校に普通科新設
47 年	10 月	滋賀女子高等学校	中野富美顕彰記念館竣工
49 年	5 月	滋賀女子短期大学	体育館竣工
51 年	4 月	理事長に原山淑夫就任	
55 年	4 月	滋賀女子短期大学附属幼稚園	開園
56 年	8 月	理事長に中野幹夫就任	
57 年	11 月	滋賀女子高等学校	普通科棟竣工（現 3 号館）
59 年	3 月	滋賀女子短期大学	音楽棟竣工（現 3 号館）
62 年	4 月	滋賀女子短期大学	秘書科新設
63 年	5 月	学園創立 70 周年記念式典	
63 年	10 月	滋賀女子高等学校	第二体育館竣工

年	月	事	項
平成 3 年	3 月	滋賀女子高等学校	普通科棟増築竣工（新館）
3 年	4 月	滋賀女子短期大学	服飾学科を生活学科に科名変更
6 年	3 月	滋賀女子短期大学	学舎増築（3 号館）
9 年	4 月	滋賀女子高等学校	家政科を生活創造科に科名変更
11 年	3 月	滋賀女子高等学校	体育館建替竣工（第一体育館）
12 年	4 月	滋賀女子短期大学	秘書科をビジネスコミュニケーション学科に科名変更
15 年	4 月	滋賀女子短期大学	幼児教育学科を幼児教育保育学科に科名変更
16 年	4 月	理事長に松村文夫就任	
17 年	4 月	滋賀女子短期大学	生活学科に製菓衛生師養成校の指定を受ける
20 年	4 月	共学化に伴い学校名変更 滋賀女子短期大学を滋賀短期大学へ 滋賀女子高等学校を滋賀短期大学附属高等学校へ 滋賀女子短期大学附属幼稚園を滋賀短期大学附属幼稚園へ	
20 年	5 月	純美禮学園 90 周年記念式典挙行	
21 年	3 月	(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果 適格と認定される	
21 年	3 月	滋賀短期大学	生活学科に栄養士養成施設の指定を受ける
22 年	1 月	滋賀短期大学	生活学科に栄養教諭免許 2 種授与の課程認定を受ける
22 年	4 月	滋賀短期大学附属高等学校	生活創造科を人間総合科に科名変更
22 年	11 月	滋賀短期大学附属高等学校 2 号館耐震工事完了	
23 年	10 月	滋賀短期大学	ビジネスコミュニケーション学科に日本医師会認定 医療秘書養成校の認定を受ける
28 年	3 月	(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果 適格と認定される	
30 年	4 月	滋賀短期大学附属高等学校	人間総合科を生活デザイン科に科名変更
30 年	5 月	学校法人純美禮学園 創立 100 周年記念式典挙行	
30 年	12 月	滋賀短期大学附属高等学校	新校舎 1 号館竣工

## I 法人概要

- ・ 設置する学校の概要（平成 30 年 5 月 1 日 現在）

学 校 名	学 科	定 員		現 員	
		入学定員	総定員	入学者数	総数
滋賀短期大学	生 活 学 科	80 人	160 人	57 人	123 人
	幼児教育保育学科	170	340	129	277
	ビジネスコミュニケーション学科	100	200	107	192
	計	350	700	293	592
滋賀短大附属 高等学校	普 通 科	200	600	218	575
	人 間 総 合 科 (生活デザイン科)	80	240	48	141
	計	280	840	266	716
滋賀短期大学 附属幼稚園	3 歳・4 歳・5 歳児	60	170	48	155

- ・ 役員・教職員の概要（平成 30 年 5 月 1 日 現在）

### 【役員】（理事 10 名 監事 2 名）

理事長	松村 文夫（常勤）	理 事	中澤 道盛（非勤）
理 事	秋山 元秀（常勤）	理 事	馬場 章（非勤）
理 事	那須 文英（常勤）	理 事	中村 善郎（非勤）
理 事	小野 清司（常勤）	理 事	佐藤 尚武（非勤）
理 事	井上 清久（常勤）	監 事	東 清信（非勤）
理 事	辻 雅代（常勤）	監 事	山中 隆（非勤）

### 【評議員】評議員 井上 清久 以下 20 名

### 【教職員の概要（非常勤外数）】（平成 30 年 5 月 1 日 現在）

教 員 105 名（72 名） 職 員 34 名（21 名）

<内訳>

短期大学	教 員	32 名（67 名）	職 員	22 名（12 名）
高等学校	教 員	58 名（5 名）	職 員	6 名（7 名）
幼稚園	教 員	15 名（0 名）	職 員	1 名（0 名）
法人本部			職 員	5 名（2 名）

## II 法人会議及び監査の実施状況

### ◇ 法人の会議等

#### <理事会・評議員会>

年度	月日	会議区分	議 題 等
平成30年	5月29日	理 事 会	1. 平成29年度事業報告について
			2. 平成29年度決算について
			3. 平成29年度監査報告について
			4. 理事の選任について
			5. 評議員の選任について
			6. 理事長の選任について
	5月29日	評議員会	1. 平成29年度事業報告について
			2. 平成29年度決算について
			3. 平成29年度監査報告について
	9月7日	理 事 会	1. 短期大学学則の一部変更について
			2. 平成29年度決算の財務分析について
			3. 平成30年度資金運用中間報告について
4. 平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」への応募内容について			
11月14日	理 事 会	1. 学園職員給与規程の一部変更について	
		2. 守山市「私立保育園」設置の応募について	
12月14日	理 事 会	1. 平成30年度予算の補正について	
		2. 守山市「私立保育園」設置の応募について	
12月14日	評議員会	1. 平成30年度予算の補正について	
		2. 守山市「私立保育園」設置の応募について	
平成31年	3月1日	理 事 会	1. 評議員の推薦について
	3月12日	評議員会	1. 学園寄附行為の一部変更について
			2. 学園就業規則の一部変更について
			3. 平成31年度予算について
			4. 借入金(保育所開設に係る新築建屋工事資金)について
			5. 学園の中長期経営計画「すみれ2030」について
			6. 評議員の選任について
	3月12日	理 事 会	1. 学園寄附行為の一部変更について
			2. 平成31年度予算について
			3. 借入金(保育所開設に係る新築建屋工事資金)について
			4. 学園の中長期経営計画「すみれ2030」について
			5. 短期大学の学則の一部変更について
6. 理事の選任について			
			7. 評議員の選任について
			8. 学園就業規則の一部変更について
			9. 学園旅費支給規程の一部変更について
			10. 学園職員給与規程の一部変更について
			11. 学園の嘱託職員及び嘱託講師の雇用に関する規程の一部変更について
			12. 平成29年度自己点検・自己評価報告書について

<常任理事会>

年 度	月 日	議 題 等
平成30年	4月27日	1. 学園の非常勤講師の雇用等に関する規程の一部改正について
		2. 学園の非常勤職員の雇用等に関する規程の一部改正について
		3. 当面の課題について
	6月22日	1. 保育所の設置に向けた検討について
	10月26日	1. 人事院勧告に基づく純美禮学園の給与改定について
平成31年	2月22日	1. 平成31年度予算の基本方針について
		2. 学園の中長期経営計画「すみれ2030」(2018~2030年)について
		3. 学園の内部監査に関する規程について

◇法人の監査等

年 度	月 日	内 容 等
平成30年	4月5日	期首監査(公認会計士)
	5月21日	平成29年度会計決算監査
	5月22日	
	5月22日	学園監事による公認会計士からの意見聴取
	5月24日	学園監事監査
	7月13日	学園監事監査(教学監査)
	7月20日	中間監査(公認会計士)
	9月21日	中間監査(公認会計士)
	11月22日	中間監査(公認会計士)
平成31年	2月21日	中間監査(公認会計士)

### III 各部門の教育推進の概況 (事業報告)

#### <短期大学>

##### 1. 全学的な教育研究活動の推進

平成 30 年度、本学入学者数は 350 人の募集定員に対し 293 人と、前年度と比べ 28 人少なく、減少率は△8.7%となった。これは全国私立短期大学全体の減少率△4.1%のほぼ 2 倍の減少率。短期大学では、全国的に入学定員を満たない分野は教育保育系が目立ち、人文・社会系は善戦。本学も同様の傾向となった。また、在籍学生数は、700 人の収容定員に対し 592 人となり、定員の充足率は 84.5%と、全国私立短期大学平均の 88.1%を下回った。

区分 年度	入学者数				在籍者数			
	生活	幼教	ビジ	計	生活	幼教	ビジ	計
H30	57	129	107	293	123	277	192	592
H29	73	158	90	321	147	302	150	599
H30-H29	△16	△29	17	△28	△24	△25	42	△7
増減率	△21.9%	△18.4%	18.9%	△8.7%	△16.3%	△8.3%	28%	△1.2%

少子化の進展や高校生の四年制大学志向など、近年の短期大学経営を取り巻く情勢は厳しく、政府が進める高等教育の無償化政策がどう影響するか不透明である。本学では、平成 30 年 4 月に赴任した新学長のもと、副学長を増員して二人体制とし、新たに「中期目標・計画(平成 30 年～平成 32 年度)」を策定して、全学的な理解のもとに積極的な教育研究活動を推進した。

○生活学科に新たにライフデザインコースを設け、学生募集 (R2 募集) を開始。幼児教育保育学科では、定員充足率を高めるため入学定員を 20 人減じて 150 人とした。令和元年度卒業生から准学校心理士資格の取得を可能とする。令和 2 年度には 2 つのコース (履修モデル) を設置。

○滋賀県立高等技術専門校から新たに長期高度人材育成コースの人材養成を受託。生活学科の食健康コース：栄養士資格取得を目指す委託訓練生 2 名を受入れた。幼児教育保育学科：令和元年からは保育士資格の取得を目指す訓練生を受入れ、学生募集を実施。

・令和元年度募集定員 (入学実績)：栄養士養成 3 人 (3 人)、保育士養成 5 人 (4 人)

○学生募集は、遠隔地学生確保のため新たに「家賃補助制度」を設けた。留学生確保のため日本語学校への募集強化を図った。

・令和元年度入学者：うち、下宿補助対象者 2 人、留学者 15 人 (ベトナム 11、スリ兰卡 4)

○高大接続として、附属高校生が本学の科目等履修生として学ぶ“すみれ基礎講座”を開講。

○教育の質向上として、よりきめ細やかな履修指導や学習支援に活用するよう、累積 GPA (履修科目の平均値) に加え、新たに学期 GPA も通知。

○教育職員免許法等の改正により、平成 31 年 4 月以降も引き続き教職課程を有するには、改めて課程認定が必要であることから、幼児教育保育学科の「幼稚園教諭二種免許」と生活学科の「栄養教諭二種免許」について再課程認定申請を行い、文部科学大臣から平成 31 年 1 月 21 日付けで認定を受けた。保育士に関しても、指定保育士養成施設として幼児教育保育学科の修業教科目等の変更に係る学則の変更申請を行い、滋賀県知事から平成 30 年 12 月 28 日付けで承認を受けた。

○就職支援は、幼児教育・保育分野における就職支援協定を大津市と締結するとともに、就職支援講座やハローワーク相談員による週 1 回の相談会、「公務員特講」の開講などの支援を実施。就職率は、昨年を 0.7 ポイント下回る 98.5%で、公務員就職者は 10 名 (幼教 7、ビジ 3) となった。

## 2. 課外活動の実施状況

### (1) 学生団体の結成（平成 30 年 8 月 3 日現在）

- ・団体結成数 19 団体（前年度 21 団体）
- ・クラブ及びサークル加入者数 188 名（前年度 195 名） 加入率 32.0%（前年度 32.7%）

### (2) 主な成績・活動結果

- ・第 53 回全国私立短期大学体育大会（8/6～8/9 の 4 日間）
  - バレーボール部女子 第 3 位
  - バドミントン部女子 団体準優勝、ダブルス第 3 位、シングルス準優勝
  - バスケットボール部女子 第 3 位
  - ソフトテニス部女子 団体優勝、ダブルス優勝・準優勝・3 位(2 部)
- ・バスケットボール部女子
  - 関西学生バスケットボールリーグ戦（3 部） 第 8 位
  - 滋賀県学生選手権大会 第 2 位
- ・バレーボール部女子
  - 関西大学バレーボール春季リーグ戦（3 部） 第 5 位
  - 関西大学バレーボール秋季リーグ戦（3 部） 第 7 位
  - 西日本インカレ 決勝トーナメント進出
- ・ソフトテニス部女子
  - 関西学生ソフトテニス春季リーグ戦（3 部） 優勝（3 部残留）
  - 関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦（3 部） 優勝（2 部昇格）
  - 滋賀県夏季選手権大会 ダブルス優勝・準優勝・第 3 位
  - 滋賀県ソフトテニス秋季選手権大会 団体 準優勝
- ・バドミントン部女子
  - 京都学生バドミントンリーグ戦（1 部） 第 6 位（2 部降格）
  - 関西学生バドミントン春季リーグ戦（2 部） 第 6 位
  - 関西学生バドミントン秋季リーグ戦（2 部） 第 4 位
- ・2018 KDK ファッショングランプリコンテスト
  - 京都市長賞 生活学科 2 回生 1 名
  - KDK 会長賞 生活学科 2 回生 1 名
  - 京都織物卸商業組合賞 生活学科 2 回生 1 名
  - 西陣織工業組合賞 生活学科 2 回生 1 名
  - K B S 京都賞 生活学科 2 回生 1 名
  - 織研新聞社賞 生活学科 2 回生 1 名

## 3. 学生相談状況

学生相談は、きめ細かな対応をするために保健室やカウンセリングに従事する専門家等と連携をとりながら業務を遂行。学生相談室来室者はのべ相談者 169 名（前年度 148 名）。令和元年度からは学生相談に包括的に対応するための学生相談コーディネーターを新たに配置。

## 4. 自己点検・評価活動の状況

平成 29 年度自己点検・評価報告書を、平成 31 年 1 月に刊行。



## 5. 学生募集の状況

### (1) 令和元年度入学試験受験状況

- ・志願者数 348 名\* (前年度 399 名\*、前々年度 345 名)  
\*<AO 入試、推薦入試などの合格者の一般入試 I 期 (夢・未来人特待生制度) 志願者 47 名 (前年度 83 名) 含む>
- ・合格者数 346 名 † (前年度 395 名 †、前々年度 339 名)  
†<AO 入試、推薦入試などの合格者の一般入試 I 期 (夢・未来人特待生制度) 合格者 47 名 (前年度 83 名) 含む>
- ・入学者数 266 名 <<内男子 37 名 >>  
(前年度 293 名 <<内男子 30 名 >>、前々年度 321 名 <<内男子 26 名 >>)

### (2) 夏のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 4/30(月祝)、5/13(日)製菓・製パンコースのみ、  
5/27(日)、6/17(日)、6/24(日)、7/21(土)、7/22(日)、8/19(日)、9/16(日)
- ・参加者 延べ 921 名 (前年度 912 名、前々年度 778 名)

### (3) クリスマスオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 12/9(日) 参加者 89 名 (前年度 76 名、前々年度 76 名)

### (4) バレンタインオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 2/10(日) 製菓・製パンコースのみ 参加者 21 名 (前年度 16 名)

### (5) 春のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 3/21(木祝) 参加者 113 名 (前年度 91 名、前々年度 143 名)

## 6. 留年、退学、除籍の状況

- ・留年者数 9 名 (前年度 2 名) 退学者数 26 名 (前年度 29 名) 除籍者数 3 名 (前年度 2 名)

## 7. 卒業生の状況

### (1) 卒業状況 (9 月卒業含まず)

卒業総数 280 名 (前年度 266 名)

- ・生活学科 64 名 (前年度 72 名)
- ・幼児教育保育学科 135 名 (前年度 138 名)
- ・ビジネスコミュニケーション学科 81 名 (前年度 56 名)

### (2) 免許・資格等の取得状況 (9 月卒業含まず) ( ) 内は前年度人数

生活学科

栄養士免許	31 名 (33 名)	フードスペシャリスト合格	16 名 (11 名)
栄養教諭二種	4 名 (0 名)	専門フードスペシャリスト (食品開発) 合格	3 名 (新規)
製菓衛生師受験資格	22 名 (24 名)	〃 (食品流通・サービス) 合格	0 名 (新規)
パティスリーラッピング 3 級合格	12 名 (新規)		

幼児教育保育学科

幼稚園教諭二種	129 名 (120 名)	保育士資格	130 名 (127 名)
レクリエーション・インストラクター	0 名 (0 名)		

□ビジネスコミュニケーション学科

上級秘書士	24名(2名)	秘書士	40名(40名)
上級情報処理士	7名(3名)	情報処理士	61名(46名)
上級ビジネス実務士	9名(4名)	ビジネス実務士	3名(4名)
上級秘書士(メーICAL秘書)	16名(1名)	ウェブデザイン実務士	5名(1名)
日本医師会医療秘書合格	9名(5名)	レクリエーション・インストラクター	6名(7名)
健康運動実践指導者受験者	6名(0名)		

(3) 就職状況(平成31年5月1日現在)

- ・就職率 98.5%(前年度99.2%)
- ・幼児教育保育学科就職者の幼、保、施設への就職率 94.5%(前年度94.7%)
- ・公務員(正規)合格者10名(前年度14名)
- ・総求人件数 1,202件(前年度1,181件)

8. 専任教員の授業担当状況

(1週あたりの授業時間数)

	前期担当平均時間数	後期担当平均時間数	通年担当平均時間数
・生活学科	9.6(前年度10.5)	10.7(前年度10.1)	10.2(前年度10.3)
・幼教学科	14.8(前年度12.1)	13.0(前年度12.7)	13.9(前年度12.4)
・ビジ学科	15.0(前年度13.1)	12.0(前年度11.2)	13.5(前年度12.2)

9. 教員の状況(平成30年5月1日現在)

(1) 専任教員数

32名(前年度31名) ※専任特任教員7名含む〔特任教授3名、特任助手4名〕

(2) 非常勤教員数

96名(前年度101名) ※非常勤特任教授1名、非常勤特任准教授1名、  
非常勤特任助教1名含む

10. 教員の外部資金獲得状況

(1) 科学研究費助成事業(科研費): 文部科学省・日本学術振興会

教員名	研究課題	30年度交付決定額	研究種目
小山内 幸治	学習指導要領と親和性の高い金融教育プログラムの構築と教員養成へのアプローチ	1,170千円 うち間接経費270千円	基盤研究(C) 研究分担者
小山内 幸治	金融リテラシー高度化プログラムの実施と期待形成効果の検証	403千円 うち間接経費93千円	基盤研究(C) 研究分担者
笹倉 千佳弘	脱落型不登校児童のエンパワメント実現を可能とする地域社会の支援ネットワークモデル	1,519千円 うち間接経費300千円	基盤研究(C) 研究代表者
笹倉 千佳弘	内集団・外集団によるインフォーマル重層的里親養育支援地域ネットワークに関する研究	195千円 うち間接経費45千円	基盤研究(C) 研究分担者

李 霞	グローバル化に対応する「社会に開かれた」幼児教育課程の開発的研究	910 千円 うち間接経費 210 千円	若手研究 研究代表者
-----	----------------------------------	-------------------------	---------------

(2) 近畿ブロック保育士養成協議会研究費助成：近畿ブロック保育士養成協議会

教員名	事業名	30 年度助成金額
北後 佐知子	乳幼児の育ちへの気づきとその共有による子育て支援 ～楽器・人形・積木あそびを通して～	150 千円

(3) 民間福祉団体等が行う地域福祉活動振興基金（内藤基金）助成：滋賀県社会福祉協議会

教員名	事業名	30 年度助成金額
荻田 純久	指向性保育士養成カリキュラムの検討と実践に関する研究	340 千円

### 1 1. 教員の研究費の状況

(1) 個人研究費 ・専任教員一律 25 万円

(2) 学長裁量経費による支援

・学長裁量経費Ⅰ型（教育改革）

Ⅰ型：全学的課題及び学科的課題の解決に向けた教育改善

採択者 2 名 採択合計額 350 千円

Ⅰ型 2：授業改善に関わるモデル授業づくりの教材開発 申請なし

・学長裁量経費Ⅱ型（研究推進）

Ⅱ型 1：地域の教育文化や産業等との連携による教育研究の推進

採択者 6 名 採択合計額 1,090 千円

Ⅱ型 2：発展的高度化に関わる教育研究の推進

-1：国際学会等における発表への支援 採択者 1 名 採択額 50 千円

-2：学術雑誌等への投稿への支援 申請なし

-3：学術出版物の刊行への支援 採択者 1 名 採択額 200 千円

Ⅱ型 3：外部資金に関わる教育研究の推進

-1：科学研究費補助金に関わる継続的研究への支援 採択者 1 名 採択額 100 千円

-2：自治体等の補助金に関わる研究への支援 申請なし

・学長裁量経費Ⅲ型（教育支援）

Ⅲ型 1：公開講座等の教材開発に関わる支援

担当者 6 人 計 90 千円

Ⅲ型 2：地域との連携による講座等の教材開発に関わる支援

担当者 10 人 計 140 千円

・学長裁量経費Ⅳ型（特別支援）

Ⅳ型 1：特任助手に対する研究費の支援（1 人当たり 100 千円）

支援者 4 人 計 400 千円

Ⅳ型 2：特任教員（非常勤）に対する研究費の支援（1 人当たり 50 千円）

支援者 3 人 計 150 千円

Ⅳ型 3：新任教員に対する研究費の特別支援（1 人当たり 50 千円）

支援者 3 人 計 150 千円

・学長裁量経費Ⅴ型（教職員表彰）

該当なし

総額 2,720 千円

## 1 2. 教職員の研修状況

### (1) FD研修(高等教育開発センター主催)

- ・学内研究会 3回開催(7/5、8/30、2/7)

### (2) SD研修(SD委員会主催)

- ・学内研修会 3回開催(職員研修:6/7、8/23、人権研修12/6)
- ・SD関連報告会 3回開催(9/6、11/29、3/27)

### (3) 地域連携教育研究センター主催

- ・学内研究会 3回開催(5/3、10/4、3/20)

## 1 3. 短大生調査2018の状況

- ・調査実施日 平成30年11月8日(木) ( )内は前年度人数
- ・調査対象者数 565名(565名) 回答者数 539名(546名) 回答率 95.4%(96.6%)

## 1 4. カリキュラムの変更等

### ・共通科目

新設科目	2科目	計4単位
名称変更科目	3科目	計3単位
廃止科目	7科目	計14単位

### ・生活学科

専門科目における名称変更科目	1科目	1単位
専門科目における廃止科目	3科目	計4単位
教職に関する専門科目における新設	2科目	計2単位
教職に関する専門科目における名称変更科目	2科目	計3単位
教職に関する専門科目における廃止科目	1科目	1単位
選択自由科目における廃止科目	2科目	計2単位

### ・幼児教育保育学科

専門科目における新設	3科目	計5単位
専門科目における名称変更科目	18科目	計31単位
専門科目における単位数変更	2科目	計2単位
専門科目における科目名称・単位数・必修選択の変更(選択→必修)変更	1科目	1単位
専門科目における名称・単位数変更科目	1科目	1単位
専門科目における科目統合	1科目	1単位
〃による廃止科目	2科目	2単位
専門科目における廃止科目	8科目	計10単位

### ・ビジネスコミュニケーション学科

専門科目における新設	13科目	計14単位
専門科目における必修選択の変更(選択→必修)	1科目	1単位
専門科目における必修選択の変更(必修→選択)	1科目	1単位

## 15. 大学及び自治体等との連携事業

- (1) 滋賀医科大学との共催講座：7/14
  - ・午前：講演（滋賀医科大学担当）・午後：調理実習（滋賀短期大学担当）
- (2) 滋賀大学教員免許状更新講習：8/6
  - ・選択講座における幼児教育領域の2講座を担当
- (3) 滋賀県保育協議会との連携講座（家庭的保育事業等研修）
  - ・基礎研修：7/15、7/29、8/26、9/1 於 滋賀短期大学
- (4) 地域移動講座
  - ・7会場開催（甲賀市、長浜市、高島市、東近江市、近江八幡市、守山市、大津市）
- (5) 図書館連携講座
  - ・大津市立浜大津図書館 2回開催（6/6、7/7）
  - ・大津市立和邇図書館 2回開催（8/4、9/1）
  - ・大津市立北図書館 2回開催（10/6、11/17）
- (6) 平野学区連携教育講座
  - ・平野市民センター大会議室 1回開催（6/30）
- (7) 地域との課題解決型実習
  - ・生活学科と滋賀県農政水産部水産課との連携  
「びわ湖の魚を使った親子料理教室」を実施：12/21
  - ・ビジネスコミュニケーション学科・生活学科と道の駅との連携  
「道の駅竜王かがみの里」と連携企画型実習を実施：3/3、10/14

## 16. 公開講座の開催

- (1) こども講座（第12回）
  - ・5講座 延べ開講日数8日（8/8～8/22） 受講者総数 90名
- (2) すみれキャリア講座（第21回）
  - ・7講座 延べ開講日数10日（8/8～9/14） 受講者総数128名
- (3) 淡海文化講座（第32回）
  - ・4講座2日間（10/13、10/27） 受講者総数146名

## 17. 研究紀要および地域連携年報の刊行

- (1) 研究紀要第44号
  - ・学術論文12編、研究ノート5編、延べ投稿者数27名、印刷部数400部
- (2) 地域連携年報第6号
  - ・調査研究プロジェクト11編、地域との教育研究活動11編、地域に向けた公開講座4編、大学及び自治体等との連携事業7編、高大連携事業2編、資料（新聞など掲載記事（平成30年1月～12月））、印刷部数400部

## 18. 図書館の整備

- ・図書館の外部者利用の受入体制と整え、本格的に地域住民への開放を開始。  
平成30年度年間図書貸出冊数10,149冊（うち外部利用者5,782冊）  
平成29年度 同上 8,725冊（うち外部利用者4,476冊）
- ・Web上に「滋賀短期大学学術情報リポジトリ」を設置し、過去5年間の紀要掲載論文を公開。

## 19. 補助金の獲得状況

・一般補助金	84,093 千円 (前年度 91,895 千円)
・特別補助金	12,855 千円 (前年度 9,615 千円)
うち私立大学等改革総合支援事業	
(タイプ1 教育の質的転換)	(6,000 千円)
補助金額合計	96,948 千円 (前年度 101,510 千円)

## 20. 施設・設備の主な整備状況

・2号館パソコン教室パソコン全面更新	58,328 千円
・2号館(2・3階)トイレ改修	18,900 千円
・音楽教室電子ピアノ更新	5,000 千円

以上

## <高等学校>

### 1. 学習（体験）活動

#### ア 宿泊体験・校外体験学習

○年度初めの各学年学科類型の体験学習

- ・1年生：4月10日～12日、教師と生徒、生徒間の人間的なふれあいを経験。集団生活への適応を図ることを目的として、若狭湾青少年自然の家にて2泊3日の宿泊研修を実施。
- ・2年生：名古屋校外研修、海外研修で実施する班別自主研修を想定して、名古屋市内を班ごとに研修。決められた時間に集合場所に集まる体験学習を実施。（4月12日）
- ・3年生：テーブルマナー講座、プリンスホテルにて、社会人のマナーとして公式の食事会マナー体験を受講。（4月12日）

○人間総合科（2・3年生）・生活デザイン科（1年生）の体験学習

- ・1年生：11月14日～11月16日、大津市、草津市、近江八幡市等の43の店舗事業所・幼稚園・保育園で職場体験を実施。11月28日の5時間目に普通科とともに報告会を実施。家庭科専門科目「子どもの発達と保育」の実習を11月7日に滋賀短期大学附属幼稚園で実施。
- ・2年生：フラワーアレンジメントを科目「フードデザイン」の中で実施。テーブルマナーとテーブルコーディネート学習としてブライダルブーケ実演とセンターピース制作実習を実施。（2月12日、日比谷花壇南常陸氏ほか5名）校内菜園での米野菜栽培とそれらを食材とした調理実習を実施。味噌作り、豆腐作りで伝統的保存食自然食の知恵と工夫を学習。
- ・2・3年生合同：滋賀短期大学附属幼稚園をはじめ近隣14のこども園・保育園で2・3年生合同保育実習を実施。事前学習から実習まで3年生は後輩を指導し、2年生は3年生の動きを手本に実習することで、乳幼児養護や集団保育の意義を学習。（7月12日・13日）
- ・針供養：12月18日、人間総合科と生活デザイン科の全生徒と理事長はじめ学園本部と同窓会役員の前で、校長講話・勤行・献針・焼香・埋針（供養碑）を実施。創設当時からの歴史と伝統を受け継ぎ、物作りの技術と大切さを再認識し、技術の向上を祈願した。
- ・学習成果発表会：2月22日、3年生の家庭科学習の集大成として、ファッションデザイン類型と課題研究の学習成果を発表。2年生の前で発表することで次年度への事前学習に繋げた。すみれカフェ（地域の親子とともに保育を学ぶ体験学習）報告の後、3年生は茶話会を実施。

○普通科の体験学習

- ・1年生：11月14日～16日、17保育施設と36介護施設に分かれて乳幼児や高齢者と交流を行い、子育てと介護の体験学習を実施。11月28日5時間目に生活デザイン科とともに報告会を実施。
- ・2年生Ⅱ類：大阪で開催された「生徒夢ナビライブ（大学発見）」で1時間毎の学部学科別体験学習講座に参加し、大学での学びを体験。（6月16日）

#### イ 伝統文化体験

フレッシュ講座伝統文化分野の「剣舞」：外部講師を招き、日本刀と扇子を使う独特の舞踊を選択体験。

フレッシュ講座伝統文化分野「茶道」：基本となるお点前と知識・教養・作法を学習。

実践講座（3年I類）：10月11日、天台宗安楽寺住職を招き座禅体験を実施。気持ちの整理と感情のコントロールを行い、物事に冷静に対処する心を養って自分自身を見つめることを目標とした。事前学習として座禅の基礎知識を習得し、意見交換を実施。

#### ウ 国際理解教育講演

フレッシュ講座「国際交流」：日本で活躍するブラジル、韓国、中国、アメリカ、カナダ出身者を毎回講師として招き、自国の食べ物・衣服・行事・習慣など異文化を学習。

#### エ フレッシュ講座

教師の得意分野や外部講師による講座など28講座を開講。生徒は挑戦したい講座を選び1年間学ぶ。今年度は創立100周年記念行事関連講座として、プロジェクションマッピング・イラストデザイン・手作りクラフト等の7講座を設置。高大連携として、聖泉大学から心理学、滋賀短期大学から保育関連の講座を開講。剣舞、国際交流は外部講師を招き、ボランティア活動、スポーツ、科学、数学、音楽、護身術、各種検定から物づくりなど幅広い分野で実施。100周年行事の一環として12月14日に講座毎の成果発表会を実施。

#### オ 全校生徒のスポーツ活動、文化活動

・湖嶺祭 テーマ：Step to the future

～ 未来への第一歩、新たな100年の創造 ～

体育祭の部：1日目 6月7日（皇子山陸上競技場）リレー競技、大縄跳び、他

2日目 6月8日（滋賀県立体育館）応援合戦、学年別演技、綱引、  
玉入れ、他

文化祭の部：1日目 9月1日 大津市民会館にて舞台発表

2日目 9月2日 本校にて展示と模擬店を中心に開催

・踏破：3月12日、1年生2年生の全員が長距離を歩行し、忍耐力を養うとともに集団行動や公衆道徳と滋賀の自然や文化・環境を学習。琵琶湖岸・瀬田川岸を各自歩行能力に合わせて、21km（京滋バイパス折返約190名）と26km。（洗堰折返約280名）の2コースから選択。保護者2名も昼食場所で協力。

・すみれピック：生徒会主催で3月16日、バドミントンなど球技3種目と百人一首やおセロなど文化系競技5種目を開催。（クラス対抗）

#### カ 実践講座

3年生I類の総合的な学習として毎週木曜日午後、高校単独（各種体験・70名）と高短連携（滋賀短大・27名）に分かれて「現代社会を知り、未来につなげる学びの時間」をテーマに実施。体験活動を通し達成感や充実感を感じ取るとともに、自己の進路を模索する活動。問題解決能力を育成し、自己のあり方と生き方を考える。2週で1講習（事前学習・体験活動・事後学習）とし、12月に2年生を交えて発表会を実施。

高校単独では、マナー・ビブリオバトル・救命救急・座禅・性の健康・保育探究・裁判所見学（大津地方裁判所）などをテーマに、専門家の講義や機関・施設の見学を通して体験学習を行う。高短連携では、滋賀短期大学で各学科の体験学習を中心に短大での学びを体験。本年度から幼児教育保育学科受講者には2単位、生活学科とビジネスコミュニケーション



学科受講者には各 1 単位を短大入学後に一般教養科目の単位として認定する科目履修制度を設けた。

キ 18 歳選挙権を意識した生徒会役員選挙

大津市選挙管理委員会から投票箱と記載機など一式を借用し、投票者名簿確認と投票用紙交付と立会を行う本格的な投票形式を体験。本年度は総選挙の直後の 9 月 26 日に実施し、18 歳選挙権に関する学習の一環とした。

ク 講演（啓発）活動

1 年生対象

・「薬物乱用防止」（10 月 31 日）、NPO 法人びわこダルク施設長 猪瀬健夫氏から、薬物乱用行動の実態、乱用による心身への影響や社会に及ぼす影響について講演。薬物乱用防止の認識を高めた。

2 年生対象

・進路講話「急激な時代を生き抜くためのアップデートの重要性」（10 月 31 日）京都造形芸術大学吉田大作教授から、将来を見据えて努力することの大切さについて講演。続いて実力テストと一般入試クラスについて説明し、高校生活の過ごし方と卒業後の進路について考える機会とした。

全学年対象

- ・スマホ・携帯学習会「スマホ・ケータイの使用について注意すべきこと」（4 月 18 日）、大津警察署生活安全課 山元優史氏を講師とし、実際の事例を示して生徒に問いかけながら、犯罪被害にあうことの恐ろしさを講演。
- ・人権講演「認め合い支えあって生きる ～ラップで寄り添って」（10 月 10 日）、豊郷病院作業療法士佐々木慎氏を講師とし、精神の病に対する偏見を取り除き、生きていく上で支えてくれる仲間の大切さを伝えるため、ラッパーとしても活躍されている同人は、音楽仲間とともにラップを使って講演。
- ・人権共同映画鑑賞「青い鳥」（9 月 5 日）、いじめに遭った男子生徒が自殺未遂を起こした中学のクラスに吃音の臨時教師が着任。うまく話せない彼が“本気の言葉”で生徒と向かい合っていく姿が描かれている映画を鑑賞。職員研修（各学期 1 回）
- ・進路研修：ベネッセ・コーポレーション松原氏によるスタディサポートの結果報告と説明を受け、グループ別に資料の読み取りと今後への生かし方について協議。6 グループから結果を発表し、グループごとの話し合いを全員で共有した。（5 月 15 日）
- ・生徒募集に関わる研修：塾経営の小島敬之氏を講師に、外部から見た本校の印象、県内の他の私学の動向等を講義。「本校がアピールするストロングポイント」についてグループで共有した。（12 月 10 日）
- ・「発達障害の生徒の特性と基本的な対応について」草津養護学校 地域支援コーディネーター 古日山守栄先生を講師とし、発達障害のさまざまな特性を説明され、学習環境や日常の指導における配慮等について学習。紋切り型の理解や解釈にとらわれず、まずは理解を示すことから始めることが大切であると指導。（3 月 19 日）

## ケ 国際交流

### ・ニュージーランド11ヶ月長期留学

2年生生徒1名が平成30年1月24日～12月9日まで、ヒッポファミリークラブ海外高校交換留学制度を利用してニュージーランドの高校に留学。1～2ヶ月に1回手紙にて学習と生活の報告を受けた。帰国後は包括的に単位を認め、進級に向けて熱心に学習し、無事3年生に進級。

### ・ニュージーランド語学研修とニュージーランド短期留学

2年生生徒1名が海外研修制度を利用して、平成30年7月27日～8月25日までの4週間ホームステイをしながら語学学校で英語研修を実施。(今年度3ヶ月短期留学はなかった。)

### ・海外研修

2年生は海外研修旅行として当初グアム研修を予定していたが、国際情勢を考慮し、安全確保のため前年度と同様に行き先を香港に変更。香港では現地の高級中学を訪問し交流を図った。また、現地大学生と市内を研修するグループ学習、香港ディズニーランドの英語スタッフ研修などの多彩なプログラムを3泊4日で実施。(12月2日～5日)

### ・留学生の受入

米国の留学生女子1名を3年人間総合科に受け入れた。日本伝統文化と食文化に興味があり、人間総合科の授業の他、放課後は書道部・茶道部・華道部で活動した。

(受入期間：7月5日～7月19日)

### ・台湾高級中学の受入(4校)

台湾竹崎高級中学(生徒25名、教員3名)の訪問を4月17日に受け2年生Ⅱ類で対応。

高雄市立路竹高級中学(生徒18名、教員3名)は5月22日に1年生Ⅱ類で対応。

興華高級中学(生徒47名、教員4名)は12月17日に1年生Ⅰ類で対応。

新北市立新莊高級中学(生徒34名、教員3名)は2月19日に1年生活デザイン科で対応。いずれも歓迎式・交流会・校舎案内・部活動体験などで交流を深めた。

### ・オンライン英会話ウエブリオ(weblio)

パソコンのテレビ電話機能を利用したマンツーマン式の英会話で、有名大学を卒業したフィリピン人ネイティブスピーカーと2年生Ⅱ類67名が毎週英語の授業1時間を使って会話をした。

## コ エコフオスター活動

滋賀県が実施する淡海エコフオスター事業に今年も参加した。毎月1回1年生各クラスで校外清掃活動を計画したが、前半は荒天続きで延期となり、後半に実施。さらに、生徒役員とフレッシュ講座「地球にやさしく」の選択者でも実施。

## サ 郷土学習

文化祭で今年度の新しい取り組みとして「プレゼンバトル」を実施。1年生9学級、2年生7学級のクラス代表が郷土紹介の発表を行うもので、各ホームルーム教室で決められた時間割(学年クラス分)に沿って、5分の持ち時間内にプロジェクター等を用いて発表。1年生は大津市、2年生は滋賀県をテーマにフィールドワークを行い、収集した資料をもとに郷土紹介の発表資料をまとめた。教員が各クラスを回って採点し、高得点のクラスを閉会式で表彰した。

#### シ 防災教育・救命救急体験・防災避難訓練・性の健康教室

- ・3年生全生徒が11月14日、神戸市の「人と防災未来センター」で地震などの防災意識を高め、災害跡を訪ね経験者の話を聞き、被災状況とその後の復興を学習。15日、本校体育館にて移動式発電機の使い方、簡易トイレの組み立て方と使用方法、非常食の試食を4学級ずつ2グループに分かれて体験。
- ・11月1日10時から緊急地震速報シェイクアウト訓練（文部科学省が広域参加を呼びかけている取組）を全校で実施。生徒には事前予告せず大地震が発生したと想定し、放送による13分間の防災訓練とした。観察記録を取り反省を行った。
- ・3年生I類の生徒70名が大津市中消防署消防士の指導の下、実習用蘇生人形を使って一人ひとりが心肺蘇生法の体験。（7月12日）
- ・3年生I類の生徒70名が、性犯罪とその危険性について、動画とグループディスカッション等で知識を得た。南草津野村病院の医師の講演を受けて、ワークショップ形式で学習。（11月1日、8日、15日）

#### ス 夏休み保育ボランティア

希望者を募り保育ボランティアとして長期活動を実施。希望者は事前に5回の保育研修を受講し、「保育ボランティア研修修了証」を取得。6月11日から年度末まで週に1～2回15時40分～17時40分市立逢坂保育園と朝日が丘保育園、短大附属幼稚園で19名が、夏休み中には県内18の保育園・認定子ども園で21名が活動した。

#### セ その他のボランティア活動

- ・文化祭2日目に校内で献血を実施。必要とする人々のもとへ血液を届けるとともに、奉仕や援助といった人を思いやるボランティア精神を育むことを目的。2年3年の生徒、教職員、保護者・地域の方が参加。（9月2日）
- ・フレッシュ講座「地球にやさしく」生徒30名が、公益財団法人滋賀県緑化推進会の職員と協力しながら募金活動を実施。中庭の花壇の園芸活動も実施。

#### ソ 高大連携

- ・3年生I類の実践講座「高短連携」とフレッシュ講座で2講座を開設した他に、滋賀県私中高連を通じて滋賀県立大学との連携を開始。工学部講座と人間看護学部講座に夏休みを利用して参加し、「日常生活に結びついた化学と物理の世界の体験」「看護の世界の体験」を受講。

#### タ ICT機器を利用した学習とプレゼンテーション

- ・「すらら」: 自立学習応援プログラムのe-ラーニング教材「すらら」を英語の授業で活用。数学、国語では、放課後の講座や家庭学習（課題）でも利用し、それぞれの進度に応じた学習により学習効果を高める。
- ・全ホームルーム教室にホワイトボードとプロジェクターを設置し、機能的でわかりやすい授業を展開。
- ・家庭科・地歴公民科ではプレゼンテーションを取り入れ、調べ学習（図書館・パソコン・フィールドワークなど）と資料整理、発表などに取り組んでいる。フレッシュ講座の発表会の他、文化祭2日目に前述の郷土学習のプレゼンテーションを実施。

#### チ 休業土曜日の自習室開放

休日土曜日（第2・第4・第5）9時～17時まで、学校で学習できるよう自習室、1号館2階スタディラボを開放。午前午後1名ずつの職員が監督して年間13回開放。利用者は年間で159名（1回平均12.2名）。昨年度は年間で40名。

#### ツ 学校ディプロマポリシー

授業・ホームルーム活動・部活動を通じて、学力の3要素（知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、主体性をもって協働して学ぶ態度）を段階的に身につける。学年ごとに計画を立て、「知識習得力」「論理的思考力」「表現力・発信力」「協働力」「能動的問題解決能力」を育てる。平成30年度入学生から適用し年次進行する。

## 2. 進路指導

ア ・第3学年進路説明会（生徒・保護者対象）を実施。進路の手引をもとに、昨年度進路結果と平成30年度進路スケジュール、進学・就職の手続き、さらには学習の仕方や奨学金についても説明。保護者86名参加。（5月12日）

・3年生就職希望者を対象に、7月24日から7月26日にかけて就職集中講座を実施した。就職の心構えや手続きに関する話、面接指導等を行った。講師は大津ハローワークと「さんぽう」に依頼。

・2年生が分野別ガイダンス（学部学科別）を受講。10大学13分野（短大含）6専門学校1就職の20分科会を2ローテーションで回り、進路選択の基礎知識とした。（6月20日）

・2年生を対象とし、3月18日に進路別説明会を開催。19大学（短大含）11専門学校1就職の31ブースを設置し、生徒が3ローテーションで説明を聞き、具体的な進路選択ができるように学習。

・1年生を対象とし、3月18日に仕事学習会を開催。仕事別に28ブースを設置し、2ローテーションでそれぞれ専門家から具体的な仕事の話聞いた。警察官や税理士、ホテル、ブライダル関係、調理師、歯科衛生士、保育士など、生徒は自分になりたい職業に向けて一層努力する気持ちをはぐくむことができた。

#### イ 普通科I類一般入試クラスの状況

3年生普通科I類では4年生大学希望者を一般入試クラスとし、1学級（27名）設置し、II類と同じ教育課程とし進学への意識を高めた。校内塾にも23名の生徒が入塾しており、タイアップした進路指導を展開した。その結果、27名全員が一般試験で受験し成果をあげた。

#### ウ 校内塾

4月から本格的な活動を展開。3年生から44名が入塾し、専属の正副塾長（3教諭）を中心に水曜日を除く授業日の放課後15時30分（土曜日13時30分）～19時まで集中的に学習指導を実施。センター試験や一般試験に向けて計画的に取り組み、希望大学に進学。今年度3年目となり、オープンスクールや学校説明会で中学生や保護者からの関心は高い。

さらに、一層の受験学習意識の向上と進路志望をかなえることを目標とし、2年生を対象に「受験スタート講習」を11月1日から開始し、69名が参加。

#### エ 卒業生の進路決定状況

大学	短大	専門・各種	就職	その他	合計
102名	50名	45名	8名	17名	222名

### 3. 地域連携

ア すみれカフェの実施。(後述の地域協働推進事業に含む)

イ 生活デザイン科公式 Facebook に月 1～2 回情報掲載。衣食住保育の 4 分野に学習活動をリアルタイムで紹介。家庭科授業に加え、近隣の幼稚園・保育園での保育実習、地域や企業との連携活動、農業体験や郷土・伝統文化や染色・礼儀作法・プレゼンテーションに関わることなど多彩な内容を発信。パソコンやスマートフォンからも手軽にアクセスでき、より身近に学習活動や課外活動の様子を知ることができた。

ウ SUMIRE Culture & Sports Club (すみれ CSC)

バレーボール教室・フィットネス健康教室・天体観測の3講座を開催。

- ・バレーボール教室

職員が指導者、生徒がアシスタントとして、バレーボールを通して子どもたちの自主活動と指導者の自主研修の機会とした。小中学生・一般の方約 400名が参加。年間23回開催。

- ・フィットネス健康教室

ウェーブストレッチを中心にヨガ・ダンスを取り入れ、ほぐす・引き締める・伸ばす等を実施。自分の体と向き合い、身体の声を感じ、セルフコンディショニングで健康の保持増進を図った。近隣の方が毎回多数参加し、好評を得ている。近隣住民約230名参加。年間16回開催。

- ・天体観測会

近隣の小中学生、地元の方からも参加者を募り、天体望遠鏡を使って惑星と星座の講話と観測を実施。参加者約200名。年間4回開催。

エ 文化部による地域参加活動

校内の活動や発表・コンクールとは別に、生徒自らが地域や企業の活動に積極的に参加し、地域とのつながりを強め、地域や企業に愛される学校づくりに努めた。文部活動の幅を広げ社会の一員として活動することで、文化部の一層の発展をめざし、以下の活動を実施。

- ・軽音楽部

5月4日と9月22日、なぎさ公園おまつり広場で「けいおんストリート Live Vol.3&4」に参加し演奏発表した。10月28日、草津市立まちづくりセンターで「クサツハロウィン 2018 東ロデックスステージアニソンライブ」に参加、演奏発表した。

- ・吹奏楽部

9月24日、「大津駅前中央大通りオープンモール」に家庭部とともに参加。大津地方裁判所前で演奏。10月13日、浜大津スカイプラザスタジオ1で開催の「大津ジャズフェスティバル」と10月21日、「逢坂こどもまつり」逢坂小学校運動場で入場行進・演奏の補助役員として活動。

- ・家庭部

5月20日、大津市神領「勢多市」に参加。部員手作りのケーキや調理パン（赤こんにゃく入りバーガー）を販売し出店者や地域と交流。9月24日、「大津駅前中央大通りオープンモール」に吹奏楽部とともに参加。「すみれキッチン」でチーズドック、クッキーとジンジャーエールを調理販売した。

#### 4. 施設・設備の充実

##### ア 1号館建設工事・竣工式

1号館建設工事が終了し、平成31年1月11日に竣工式を実施。4階は300人収容できるマルチホール、3階は開架図書に加え、蔵書庫も充実したライブラリーと壁2面がホワイトボードになったアクティブラーニング教室。2階は自習スペースとして放課後の生徒の利用が多いスタディラボ、1階には昼食時に大盛況のダイニングスクエア。授業の時間帯から校内塾が利用する放課後まで、各階とも用途に応じて終日利用。

##### イ 自転車置き場の新設

1号館の建替に伴い、体育館入り口付近に自転車置き場を新設。

##### ウ 全ホームルーム教室にホワイトボードとプロジェクターの設置が終了し、校内のICT環境が整った。無線LANを整備し、2019年度入学生からiPadを活用する。ICT委員会の設置。

##### エ 中野富美記念館耐震工事

中野富美記念館の復旧・改修工事の準備計画を実施。2019年度に工事完了の予定。

#### 5. 生徒募集関係

##### ◆中学校・塾訪問（滋賀県97校、京都16校、三重1校、塾336校）年5回

##### ア 6月、8月、11月に生徒・保護者対象のオープンスクール開催と10月、12月に生徒保護者対象の学校説明会を開催し、947組の参加者。（生徒、保護者計1,656名）

##### イ 塾対象の入試説明会2回実施。（4月、9月）

##### ウ 滋賀の私立学校展に参加。イオンモール草津（116組）（8月25日、26日）、彦根ビバシティ（10組）（8月19日）

##### エ 中学校主催入試説明会に参加。（28校）

##### オ 塾主催の進学説明会に参加。（4回）

##### カ 中学校教員対象説明会1回実施。（33校）（6月）

##### キ 中学校PTAの本校への訪問。（5校）

##### ク 入試状況と入学者数

区分	入試結果と入学者数			合計
	専・併	普通科	生活デザイン科	
志願者数	専願	109 ( 51)	39 ( 1)	148 ( 52)
	併願	1,090 (490)	117 ( 1)	1,207 (491)
	合計	1,199 (541)	156 ( 1)	1,355 (543)
合格者数	専願	104 ( 46)	38 ( 1)	142 ( 47)
	併願	1,060 (448)	114 ( 1)	1,174 (449)
	合計	1,164 (490)	152 ( 2)	1,316 (492)
入学者数	専願	104 ( 46)	37 ( 1)	141 ( 47)
	併願	73 ( 34)	13 ( 0)	86 ( 34)
	合計	177 ( 80)	50 ( 1)	227 ( 81)

普通科Ⅱ類 志願者数 580人（内男子233人）

入学者数 43人（内男子15人）

## 6. 体育部の活動（主な成績）

### ○全国高校総合体育大会出場

バドミントン女子団体出場、個人複出場、単出場

バスケットボール女子出場

### ○近畿大会

バスケットボール女子出場

バドミントン女子（団体、単、複）出場

剣道部（団体）出場

陸上競技部（女子 1500m、女子走り幅跳び、近畿高等学校駅伝競走大会）出場

卓球部（男子ダブルス、女子ダブルス）出場

### ○県内等各種大会結果（主なもの）

#### ・バスケットボール女子

春季高校総体優勝、秋季高校総体準優勝、最優秀選手・優秀選手、次期滋賀国体強化指定部

#### ・バドミントン女子

春季高校総体（団体優勝、単優勝・3位、複優勝・2位）、秋季高校総体（団体優勝）、次期滋賀国体強化指定部

#### ・バレーボール女子

春季高校総体ベスト8、秋季高校総体準優勝、次期滋賀国体強化指定部（内定）

#### ・ソフトボール女子

春季高校総体出場、秋季高校総体出場

#### ・陸上競技男子・女子

春季高校総体（女子 1500m 5位、女子走幅跳 5位、女子 3000m 7位、男子 400m 7位）

秋季高校総体（女子 800m 優勝、女子 1500m 優勝、女子 3000m 2位、女子やり投げ 5位、男子 1500m 8位、男子 3000m 障害 8位）、滋賀県高等学校駅伝競争大会女子 4位

#### ・ソフトテニス女子

春季高校総体団体 9位、秋季高校総体団体ベスト8

#### ・新体操女子

春季高校総体出場

#### ・剣道男子女子

春季高校総体団体男子 3位、団体女子ベスト16、秋季高総体男子ベスト8、男子個人優勝、団地女子ベスト16

#### ・卓球男子女子

春季高校総体団体女子ベスト16、女子ダブルスベスト8、男子ダブルスベスト16、秋季高校総体団体男子ベスト16、団体女子ベスト16

#### ・硬式野球部

春季大会出場、選手権大会県予選出場、秋季大会出場、1年生大会出場

#### ・柔道女子

春季高校総体出場、秋季高校総体女子合同チーム 3位、女子体重別ベスト4

#### ・バスケットボール部男子

#### ・ソフトテニス部男子

#### ・サッカー男子

} 春季・秋季高校総体出場

## 7. 文化部の活動

### ・吹奏楽部

県吹奏楽コンクール予選銀賞・きらめき賞、県吹奏楽祭参加、県高文祭奨励賞、第9回定期演奏会、入学式・文化祭・滋賀短期大学学園祭等で演奏。

### ・軽音楽部

第10回野洲軽音楽部クラブ対抗コンテスト出場、第8回とよさと軽音楽甲子園出場、ユーストン年末コンテスト出場、文化祭で演奏。

### ・書道部

近江神宮全国献書展（入賞5）、高円宮杯日本武道館書写書道展（入賞6）、全日本書き初め大展示覧会（入賞4）、高野山競書大会（準特選含め入賞4）、伊勢神宮奉納書道展（入賞5）、全国学生比叡山競書大会（入賞5）

### ・家庭部

保護者と教師の会「すみれサロン」（授業参観と会員懇親会）・中学校PTA学校訪問・中学校教員対象学校説明会で和菓子やムース等を提供。教員向けに夕食として「カレーライス」「大人の子どもの日定食」等をワンコインで提供。

### ・ダンス同好会

SUMIRE 100-fes オープニング（軽音楽・吹奏楽と合同）、文化祭で発表。

## 8. 創立100周年記念高等学校行事（SUMIRE 100-fes）

高校独自の100周年記念行事を、12月14日（全校生徒・職員対象）、15日（地域住民・同窓生・旧職員等の関係者対象）の2日間実施。

・12月14日（金）「SUMIRE 100-fes」と題し、各講座の1年間の成果として、フレッシュ講座発表会、人間総合科・生活デザイン科の生徒によるファッションショー、プロジェクションマッピングを実施。プロジェクションマッピングは、生徒たちが専門家の制作指導を受け、純美禮学園100年の歩みを斬新な映像で構成・表現し、迫力ある画像を新校舎の壁面に映し出した。

・12月15日（土）地域や同窓生、旧職員を招き、16時から作品展示や物品販売（レジニアクセサリー、手提げバッグ、イラスト等）、スノードームづくりやサイエンスラボ（化学実験）、星空解説講座、すみれカフェ（乳幼児への遊び提供や幼児食のレシピ提供）等を校内各所で実施。吹奏楽部、軽音楽部、ダンス同好会によるコラボパフォーマンスを実施し、プロジェクションマッピングを上映。地域へ感謝の思いを伝えて100周年記念行事を完結。

## 9. 地域協働推進事業

・文部科学省の主催「平成31年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（研究開発指定校）プロフェッショナル型に生活デザイン科（人間総合科）が応募、申請した。1次書類審査を通過し、文部科学省で2次ヒアリング審査に臨んだ。結果不採択となったが一定レベルに達した学校としてアソシエイト校の資格を受ける。予算措置のない資格のためアソシエイト校としての活動はしないこととした。地域協働推進事業の内容は、地域と連携して引き続き実施する予定。

### ・主な申請内容

【研究開発課題】 「 大津の街をなんとかし隊プロジェクト  
～すみれブランディング事業～」



(1) 「Boss 百町物語」との協働によるブランディング事業

大津市中心部の商店街にある全く新しいタイプの店舗「Boss 百町物語」と協働し、店主や買い物客との交流の中から協力店舗でのディスプレイ提案や道の駅での新たな大津ブランド名産品などを考案し、地域活性化に貢献する。

(2) 大津市子育て総合支援センターとの協働による「すみれカフェ」の実施。大津市子育て総合支援センター「ゆめっこ」と協働してワークショップ「すみれカフェ」を実施し、子育てに悩む若い世代を支援し、保育に必要な知識やコミュニケーション能力、他者と協働する力などを身につけ、保育マインドを持った「保育マイスター」を育成し、地域の保育への課題解決に向けて貢献する。

・研究のねらい

大津市の抱える 2 つの課題に焦点を当て、地域と協働しながら、その解決に向けて生徒自らが考え、探究し、具体的な提案を行うことで地域に貢献する。

(1) 大津市中心部にある 3 つの商店街は、店主の高齢化や後継者不足、周辺地域に大型商業施設が開業する影響でシャッター商店街化。大津の街が元気を取り戻し、再び賑わいのある街として輝くことを目指し、生活デザイン科の生徒たちが課題研究に取り組み、地域を思い、地域に根付く生徒を育てる。

(2) 滋賀県では、全職種に対して保育士の充足率が約 1/2 倍と低く、保育士が絶対的に不足。「地域での子育て」が難しくなっている現在、子育て中の若い世代に向けて支援の手を差し伸べる必要がある。安定した保育士を確保するため、長年本学園が培ってきた保育の専門的職業人育成の伝統を生かし、知識、保育マインド、実践力のすべてが揃った「保育マイスター」の育成を目指して「すみれカフェ」を実施。

## 10. その他

・ゴルフ 3 年生 1 名

長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント 2018 (7 月 5 日～8 日)  
主催者推薦にて出場 (最年少)

関西ジュニアゴルフ選手権 (7 月 13 日～18 日) 3 位タイ

2018 年度 (第 24 回) 日本ジュニアゴルフ選手権 (15 歳～17 歳) (8 月 15 日～17 日) に  
出場

国民体育大会近畿ブロック大会本県選手団一員 (6 月 26 日～28 日)

滋賀県高等学校ゴルフ選手権春季大会 (5 月 26 日) 優勝

・税の作文

1 年生 1 名 大津租税教育推進協議会長賞受賞

・ボウリング

2 年生 1 名 国民体育大会出場

・家庭科コンクール

ファッション甲子に出品、高校生手作り絵本コンクール (滋賀短期大学) 優秀賞受賞

以上

## <幼稚園>

### 1 平成 31 年（令和元年）度の園児募集の状況

- ・入園希望者 70 人（H30 55 人・H29 69 人・H28 85 人・H27 64 人）
- ・入園児数 58 人（3 歳児 53 人・4 歳児 5 人）

### 2 教育指導状況

- ・建学の精神、文科省教育要領を踏まえ、平成 30 年度教育課程大綱の作成と実践。
- ・「愉快に体力づくり」（14 年次）の研究実践発表。近畿地区私立幼稚園教員研修大会（奈良）
- ・英語の音を幼児期から聞くことの大切さに注目し、年長クラスで毎日キッズ英語を実践。
- ・預かり保育の実施。平成 30 年度実績 述べ 3,604 人  
（29 年度 3,823 人 28 年度 3,137 人 27 年 3,604 人 26 年度 3,915 人）
- ・第 57 回全国学校歯科保健研究大会 IN 沖縄に参加。園長が幼稚園・保育所部会の発表講師を務める。  
演題：健康教育は「生き抜く力」の礎～学校歯科保健活動のもつ高い教育力～
- ・子育て支援事業：2 歳児以上対象「ようちえんであそぼう」を年間 10 回、1 歳半以上対象「とんとんあつまっておいでよ」を年間 6 回、計 16 回開催。
- ・学校法人純美禮学園創立 100 周年記念事業、「チャレンジ 100」を実施。  
（親子で 100 冊の絵本を読む 100 日お手伝いをする 100 枚の絵を描く等）達成率 72%

### 3 教員の資質向上と研修

- ・園内研修（安全管理、救急法、保護者対応、個人情報の管理等）を毎月 2 回程度、水曜日等に実施。
- ・夏季休業中は、全国幼児教育研究大会を初め各種の研修に積極的に参加。
- ・第 1 回幼児造形研究大会びわこ集会を本園が中心に開催したことより、3 年連続の会場園として、教育の質の向上に努める。滋賀県下等より 150 名参加。
- ・近藤教諭が第 62 回全国小学校体育科教育研究集会（福山）（幼少連携）で発表。  
園長が同集会、同分科会で指導助言。
- ・大津市教育相談係 伊藤美佐子による特別支援教育の概要及び個別の支援計画の立て方の研修を受ける。（8 月）
- ・大垣女子短期大学幼児教育学科長 松村斎教授を招聘しての短大主催「幼児教育アカデミー」に教員参加（2 月）。園長が同アカデミー「一人一人が輝く運動遊びの実践」の A 講座を担当した。

### 4 滋賀短期大学幼児教育保育学科等の学生等受け入れ状況

- ・2 回生の教育実習前期 6 月 4 日～8 日、後期 9 月 3 日～14 日の期間 12 人。
- ・「幼児体育」選択の学生 火曜日、金曜日に 30 人。
- ・幼児教育保育学科の各種教育内容に伴う観察、実習、サークル活動等の受入。
- ・生活学科による「カレーライス」「竹の子ご飯」「秋の実りご飯」「お楽しみ給食」の提供による交流。（カレーライス、竹の子、秋の実は緑の広場による収穫。カレーライスづくりの時は年長児が短大調理実習室にて皮むき、包丁の使い方の実技指導を受ける）
- ・スポーツ教室、チャレンジ教室の実施。
- ・短大附属高校の家庭科学習内容に伴う受入。

## 5 施設設備の整備実施

- ・電動カーテン装置取り換え 1,058 千円
- ・各クラスパソコン導入 454 千円
- ・らくらく園児管理システム導入 860 千円
- ・100周年記念園歌額 700 千円

以上

## IV 平成 30 年度 決算概要報告

### ◆学校法人会計基準について

「学校法人会計基準」は、私立学校を取り巻く経営環境の変化等を受け、公教育を担う学校法人の経営状態を社会に対してよりわかりやすく説明できる仕組みを求めています。

こうした主旨をもとに改正された「学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成 25 年 4 月 22 日文部科学省令第 15 号）」が文部科学省より公布され、平成 27 年度以後の会計年度に係る会計処理及び計算書類の作成から適用されることになりました。

### 【学校法人会計の概要】

学校法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき学校を運営し、その収入の多くは主に学生生徒等の納付金や国・地方公共団体からの補助金で構成されている極めて公共性の高い公益法人です。学校法人の使命は、教育研究活動を通じて有為の人材を育成し、研究成果を社会に還元することにあります。このように、学校法人は企業とは異なり、利益の獲得を目的としていないため、損益を目的としている企業の会計処理では、学校の経営状態を把握することは難しくなります。そこで、学校の経営状況を把握するため、私立学校振興助成法に定める「学校法人会計基準」に従い会計処理を行っています。

### 【計算書類の種類】

国または地方公共団体から補助金の交付を受ける学校法人は、「学校法人会計基準」に則って会計処理を行い、計算書類を作成しなければなりません。計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

#### ◇「資金収支計算書」

・当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、並びに当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにする計算書です。

#### ◇「活動区分資金収支計算書」

・資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

#### ◇「事業活動収支計算書」

・当該年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容、並びに基本金組入後の均衡の状態を明らかにし、経営状況を表します。

#### ◇「貸借対照表」

・年度末における資産及び負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の内容、在り高を明示し、学校法人としての財政状況（ストック）を明らかにします。

### 【学校法人会計と企業会計との違い】

一般企業は利益を追求することを目的としていることから、企業会計では、利益の源泉となる収益とそれに費やした費用を正しくとらえるために損益計算書に重点が置かれています。

それに対して学校法人は教育・研究活動を目的としていることから学校法人会計では、教育研究活動を遂行するための資金の収入と支出を明らかにする資金収支計算書が大きな役割を占めています。さらに事業活動の収支の均衡状態を示す事業活動収支計算書と資産・負債・正味財産の状態を表す貸借対照表の作成も定められています。

	学校法人会計	企業会計
事業の目的	教育研究活動	経済活動（利益追求）
会計処理ルール	学校法人会計基準	企業会計原則
計算書類	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表	キャッシュフロー計算書 損益計算書 貸借対照表
基本的財産	基本金（自己所有資産）	資本金（株主出資）
利害関係者	学費負担者、国、地公体等	株主、債権者、利害関係者等
利益処分	なし	あり（配当、社内留保金等）

### 【各計算書における勘定科目について】

#### ○資金収支計算書、事業活動収支計算書の共通科目

学生生徒等納付金（収入）	学生生徒から納入された授業料・入学金・施設費等の収入です。
手数料（収入）	入学検定料や証明書発行手数料等の収入です。
寄付金（収入）	金銭等の寄付金で、事業活動収支計算書では現物寄付金を含みます。
補助金（収入）	国や地方公共団体等から交付される助成金です。
付随事業・収益事業収入	公開講座受講料や幼稚園の預かり保育料、通園バス料などの補助活動にかかる収入です。
受取利息・配当金（収入）	預貯金・有価証券の運用から得た利息や配当金などの収入です。
雑収入	退職金財団からの交付金収入や上記に含まれない収入で、学校法人に帰属する収入です。
人件費（支出）	教職員等に支給する給与や所定福利費等です。
教育研究経費（支出）	教育研究のために支出する経費です。
管理経費（支出）	総務・人事・経理業務や学生募集活動等、教育研究活動以外の活動に支出する経費です。
借入金等利息（支出）	借入金に係る利息として支出する経費です。

#### ○資金収支計算書のみみられる勘定科目

資産売却収入	土地・建物・有価証券等の固定資産の売却収入です。
前受金収入	翌年度以降の諸活動に対応する収入を当年度中に資金収入したものの。具体的には、翌年度入学生に係る「学生生徒納付金収入」などです。
その他の収入	前期末の未収入金に係る収入や預り金受入収入など各収入科目に含まれない収入です。
資金収入調整勘定	資金の収入が前年度または翌年度に行われる収入項目の事です。具体的には「期末未収入金」や「前期末前受金」等です。
借入金等返済支出	借入金に係る返済のため支出する経費です。
施設関係支出	諸活動に使用する目的で取得する土地・建物・構築物等固定資産のため支出する経費です。
設備関係支出	諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品・管理用機器備品・図書・車両・ソフトウェア等のため支出する経費です。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による支出です。
その他の支出	前期末の未払金支払支出など各支出科目に含まれない支出です。
資金支出調整勘定	資金の支出が前年度または翌年度に行われる支出項目の事です。具体的には「期末未払金」や「前期末前払金」等です。

○事業活動収支計算書のみにみられる勘定科目

資産売却差額	資産売却収入が帳簿残高を超えた場合、その超過額をいいます。
その他の特別収入	臨時的な収入である施設設備関連の補助金、寄付金、現物寄付です。
基本金組入額	学校法人が諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために事業活動収入のうちから組入れた金額です。
資産処分差額	資産の帳簿残高が資産売却収入を超えた場合、その超過額をいいます。また売却以外で除去損や廃棄損も含まれます。
徴収不能額等	未収入金で、当期において回収不能と判断した額をいいます。

○貸借対照表にみられる勘定科目

固定資産	貸借対照表日後1年を超えて使用する資産をいいます。
流動資産	現預金等貸借対照表日後1年以内に使用する資産をいいます。
固定負債	長期借入金等、返済の期限が1年を超えて到来する負債のことでです。
流動負債	短期借入金等、返済の期限が1年以内に到来する負債のことでです。
基本金	<p>第1号基本金：学校法人が設立当初に取得した教育用の固定資産や新たな学校の設置・規模の拡大・教育の充実向上のために取得した固定資産の額をいいます。</p> <p>第2号基本金：将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額をいいます。</p> <p>第3号基本金：基金として継続的に保持し、かつ運用することでその果実を教育研究に使用する金銭その他の資産をいいます。</p> <p>第4号基本金：恒常的に保持すべき資金の額をいいます。</p>
繰越収支差額	過年度からの事業活動収支計算の結果、累積された当年度収支差額の収入または支出の超過額

## ◆平成 30 年度 決算概況説明

### 1. 【資金収支計算書】

・収入及び支出の合計は、各々3,159,344千円となり、予算（補正予算）より77,048千円減少となった。以下、予算との差異が大きかった主な科目・金額は次のとおりです。

#### (収入の部)

- ・「学生生徒等納付金収入」は、予算編成時における積算人数と入学者数の差異及び授業料負担軽減助成額（就学支援金）等により▲7,079千円の減少。
- ・「手数料収入」は、入学検定料が高等学校の受験者数の増加等により1,068千円増加。
- ・「補助金収入」は、高等学校の滋賀県からの振興補助金収入の増加により3,974千円増加。
- ・「受取利息・配当金収入」は、低金利の中、特定資産の安全・効率的な運用により、当初期待以上のクーポン収入となり2,044千円の増加。
- ・「雑収入」は、退職者の退職金財団交付金等の増加により11,888千円の増加。
- ・「前受金収入」は、平成31年度入学者数の積算数の差異により、授業料・施設設備資金の前受金が2,323千円増加。
- ・「その他収入」は、主に高等学校の校舎建替えに伴う減価償却引当資産の取崩収入等の差異により、▲46,302千円の減少。
- ・「資金収入調整勘定」は、44,882千円の差異。主に期末未収入金の減少(▲96,867千円)によるもの。部門別内訳では法人本部のキャリアアップ助成金(1,282千円)、退職者の退職金財団交付金(短期大学37,979千円、高校23,639千円)の未収入等、滋賀県からの振興補助金(高校26,801千円、幼稚園2,653千円)等の未収入分。

#### (支出の部)

- ・「人件費支出」は、教職員の人員数の積算差異による▲8,634千円の減少。退職金支出による9,173千円の増加。
- ・「教育研究経費支出」は、全般的に減少(▲67,995千円)。主な内訳は消耗品費(▲13,116千円)、光熱水費、保全改修費（高校の記念館改修見直し▲32,235千円）、業務委託費(▲4,524千円)等。いずれも予算編成における積算差異、計画予算の見直し、経費節減等によるもの。
- ・「管理経費支出」は、計画予算の縮小や経費節減等、全般に減少(▲21,822千円)。主な内訳は、法人本部における100周年記念事業関係の「100年史」完成遅延に伴う印刷製本費(▲12,195千円)の予算執行残分。その他、業務委託費(▲2,302千円)や渉外費(▲1,163千円)支出の減少等によるもの。
- ・「施設関係支出」は、高等学校の建物・構築物の工事関係費等の積算差異(▲57,826千円)によるもの。
- ・「設備関係支出」は、高等学校の新築校舎への教育研究用機器等の設備関係費用31,234千円の増加等によるもの。
- ・「資産運用支出」は、減価償却引当特定資産繰入支出(50,000千円)等により、49,188千円の増加。
- ・「予備費」は、教育研究経費・管理経費の什器用具費等に使用するもの(6,057千円)。
- ・「翌年度繰越支払資金」は、予算対比▲4,395千円減少の528,693千円。前年度より▲42,288千円減少となった。

### 2. 【事業活動収支計算書】

- ・本業である教育活動における「教育活動収支差額」は、5,871千円の支出超過。予算対比93,291千円の改善となった。
- ・「教育活動収入」は、予算対比7,838千円の増加。主な内訳は学生生徒等納付金▲7,079千円の減少となるも、手数料1,068千円の増加、経常費等補助金3,670千円の増加、雑収入11,144千円の増加(うち退職財団交付金収入:9,636千円)によるもの。
- ・「教育活動支出」は、予算対比▲85,453千円の減少。主な内訳は人件費2,090千円の増加(教職員人件費は▲8,634千円減少、退職給付引当金繰入額が7,504千円と退職金が3,221千円

- 増加)と教育研究経費は▲68,088千円の減少、管理経費▲20,350千円減少によるもの。
- ・「教育活動外収支差額」は、36,136千円の収入超過となり、予算対比2,044千円増加。収入は、特定資産等の運用による受取利息等で2,044千円の増加の38,514千円。支出は、私学振興共済事業団への借入金利息2,378千円の支払い。
  - ・経常収支差額(教育活動及び教育活動外収支差額の合計)は、30,265千円の収入超過となり、予算対比95,335千円の改善となった。
  - ・特別収支では、「特別収支差額」18,031千円の支出超過となり、予算対比▲2,271千円の減少。収入は、施設設備寄付金や現物寄付等による特別収入であり、予算対比4,252千円の増加となり、収入計は4,792千円となった。支出は、主に図書除去損▲5,416千円。うち短期大学(▲3,992千円)、高等学校(▲1,424千円)。また、退職給与引当金特別繰入(▲16,300千円)により、支出計は22,823千円となった。
  - ・「基本金組入前当年度収支差額」は12,235千円となり、予算対比93,064千円の改善となった。基本金組入額合計(181,761千円)を組入れた結果、当年度収支差額は▲169,527千円となり、予算対比147,297千円の改善となった。
  - ・ご参考として、事業活動収入計(1,729,801千円)－事業活動支出計(1,717,567千円)＝12,234千円の収入超過となる。

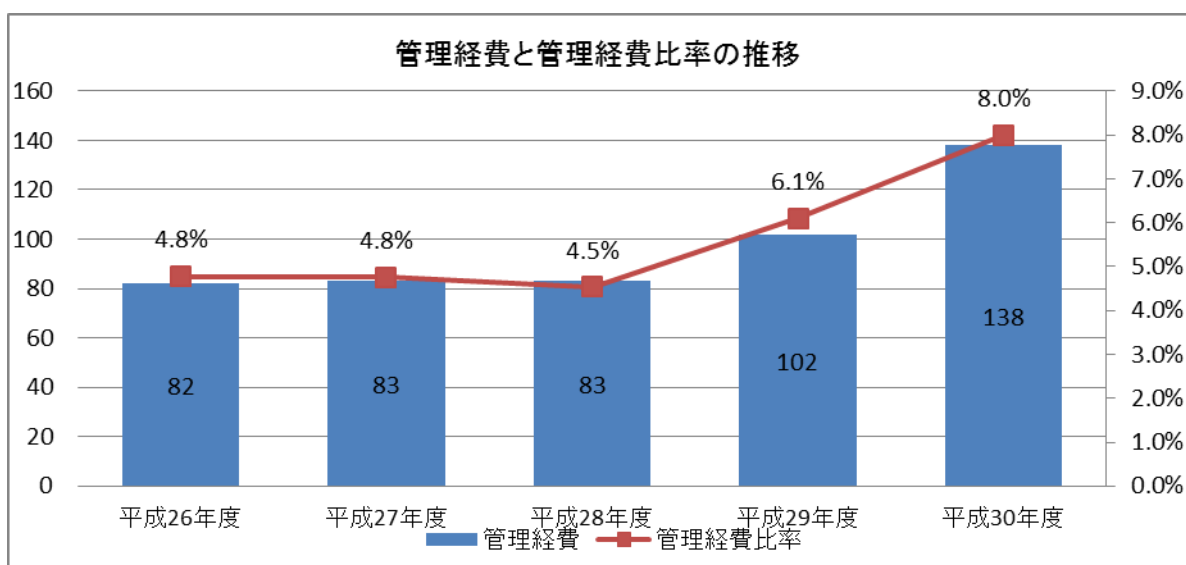
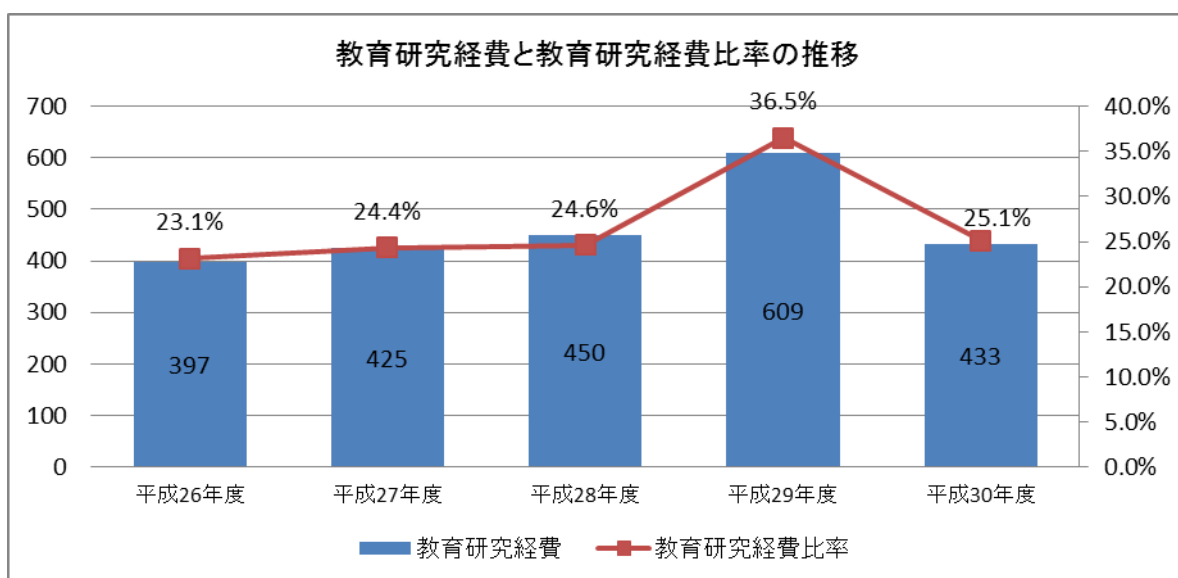
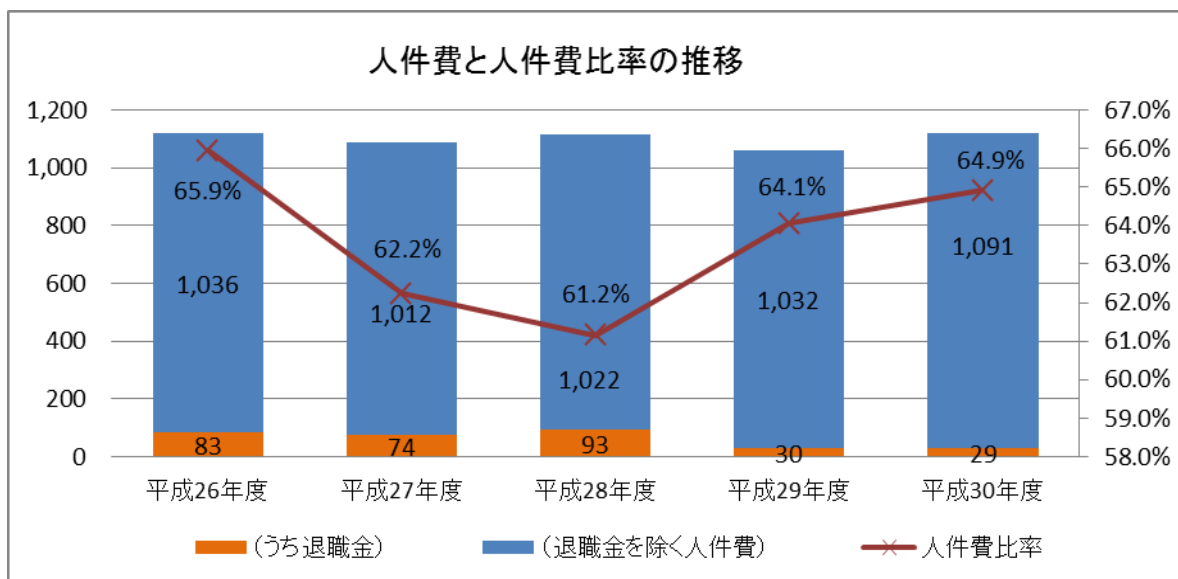
### 3. 【貸借対照表】

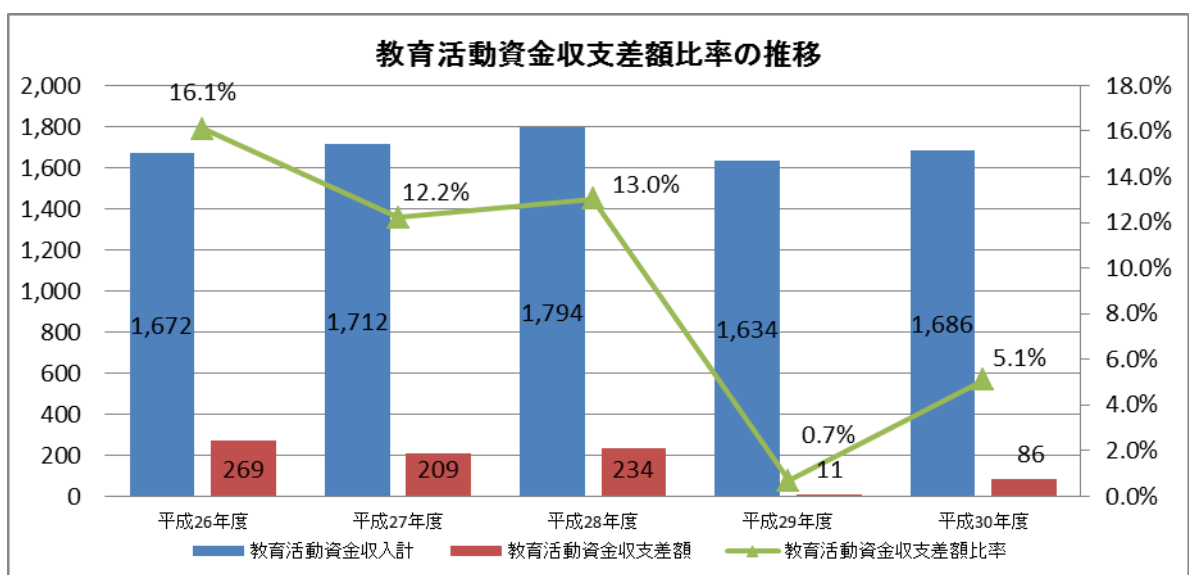
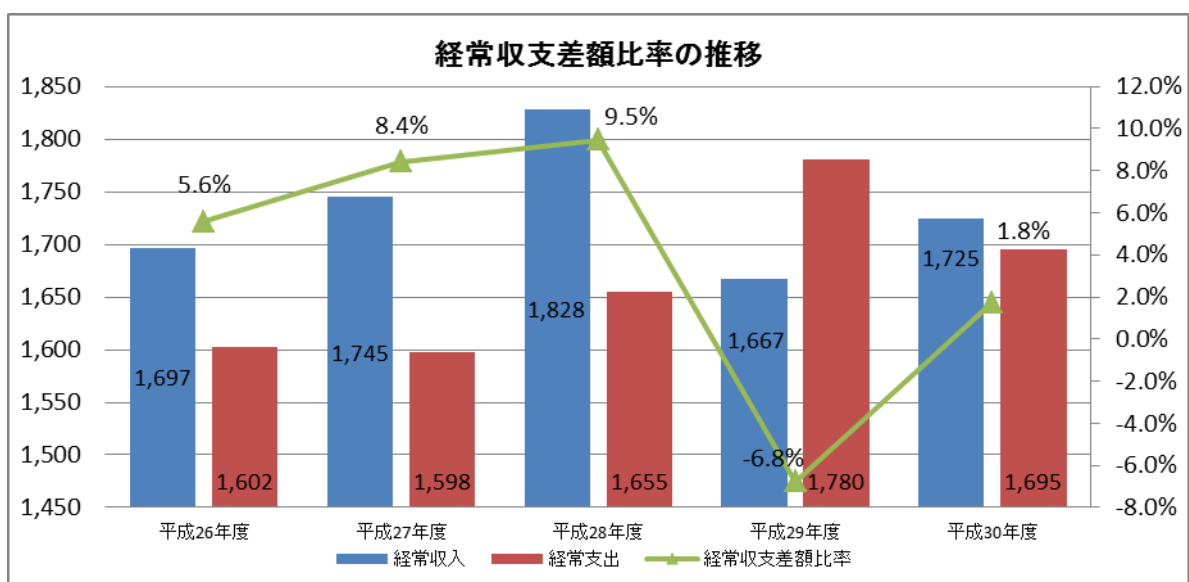
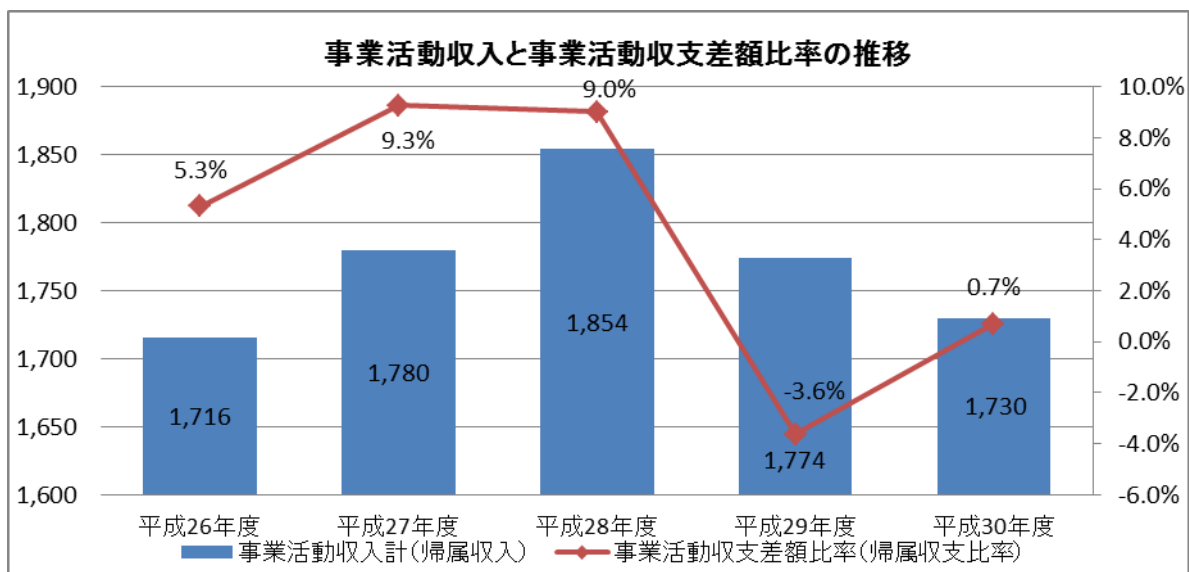
- ・資産の部合計は、5,914,002千円で、前年度末より617,029千円(+10.4%)増加。主な要因は、「有形固定資産」として高校の新校舎「建物」(735,972千円)と「教育研究用機器備品」(117,868千円)の増加。それに伴う「特定資産」として減価償却引当特定資産の取崩(▲200,000千円)による減少。「流動資産」は「現金預金」(▲42,287千円)減少等によるもの。
- ・負債の部合計は、1,230,115千円で、前年度末より604,796千円(+49.1%)増加。主な要因は、高校の新校舎のための長期借入金(600,000千円)と退職給与引当金(14,035千円)の増加。高校の借入金の返済金(▲21,660千円)、学生生徒等納金等の前受金(▲17,343千円)の減少によるもの。
- ・純資産の部合計は、4,683,887千円で、前年度末より12,233千円(+0.26%)増加。主な要因は、当期の基本金組入額合計181,761千円と、翌年度繰越収支差額が169,527千円の支出超過となったことによるもの。

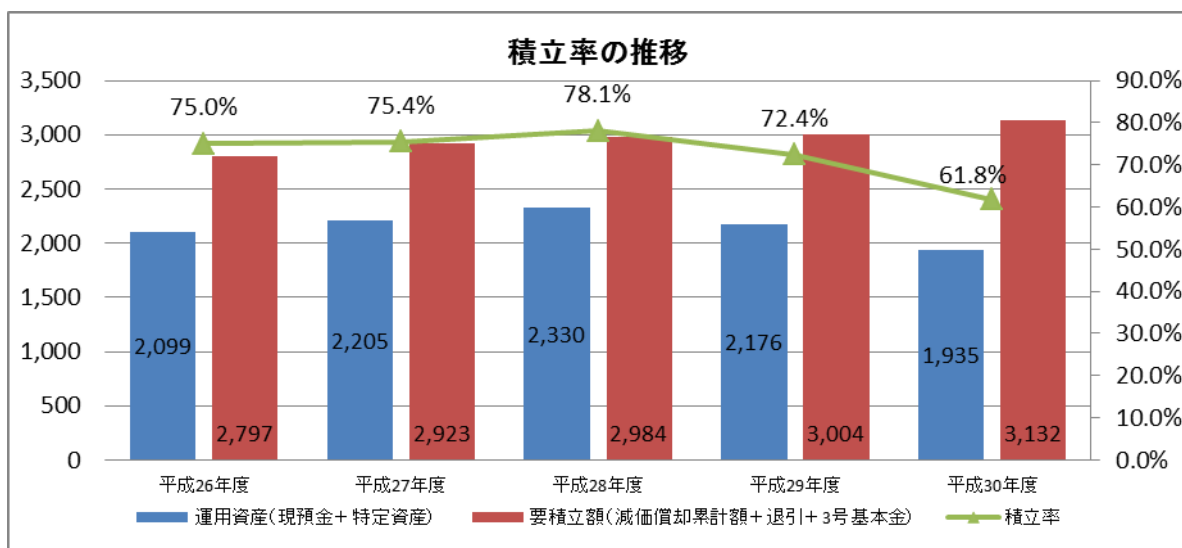
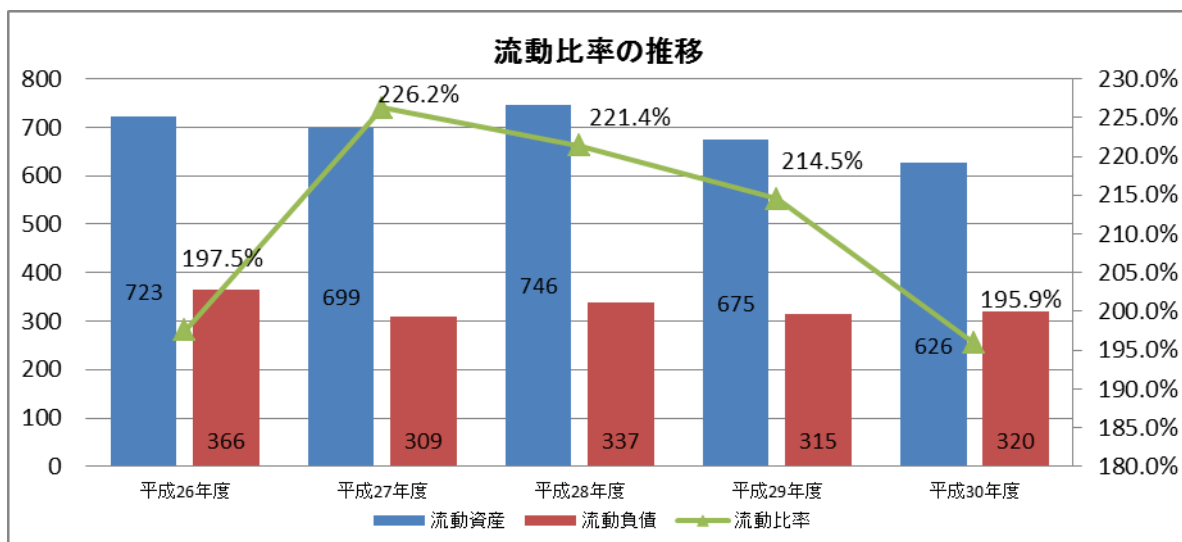
### ◆◆◆ 主要財務比率の経年比較表 ◆◆◆

		(単位 %)				
主要比率	算式(×100)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算)	平成29年度 (決算)	平成30年度 (決算)
人件費比率	人件費	65.9%	62.2%	61.2%	64.1%	64.9%
	経常収入					
人件費依存率	人件費	101.0%	97.0%	98.2%	96.1%	100.4%
	学生生徒等納付金					
教育研究経費比率	教育研究経費	23.1%	24.4%	24.6%	36.5%	25.1%
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	4.8%	4.8%	4.5%	6.1%	8.0%
	経常収入					
経常収支差額比率	経常収支差額	5.6%	8.4%	9.5%	-6.8%	1.8%
	経常収入					
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額	15.3%	12.2%	13.0%	0.7%	5.1%
	教育活動資金収入計					
積立率	運用資産	75.0%	75.4%	78.1%	72.4%	61.8%
	要積立率					
流動比率	流動資産	197.5%	226.2%	221.4%	214.5%	195.9%
	流動負債					









第1表

## 資金収支計算書

平成30年4月 1日から

平成31年3月31日まで

収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,122,674	1,115,595	7,079
手数料収入	34,349	35,417	△ 1,068
寄付金収入	23,382	23,503	△ 121
補助金収入	414,319	418,293	△ 3,974
国庫補助金収入	97,468	97,252	216
地方公共団体補助金収入	316,851	321,041	△ 4,190
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	6,289	6,086	203
受取利息・配当金収入	36,470	38,514	△ 2,044
雑収入	76,891	88,779	△ 11,888
借入金等収入	600,000	600,000	0
前受金収入	215,710	218,033	△ 2,323
その他の収入	422,689	376,387	46,302
資金収入調整勘定	△ 287,362	△ 332,244	44,882
前年度繰越支払資金	570,981	570,981	0
収入の部合計	3,236,392	3,159,344	77,048

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,120,841	1,121,379	△ 538
教育研究経費支出	367,113	299,118	67,995
管理経費支出	154,528	132,706	21,822
借入金等利息支出	2,378	2,378	0
借入金等返済支出	35,530	35,530	0
施設関係支出	900,912	843,086	57,826
設備関係支出	133,072	164,306	△ 31,234
資産運用支出	14,439	63,627	△ 49,188
その他の支出	45,734	45,770	△ 36
〔予 備 費〕	3,943		3,943
資金支出調整勘定	△ 75,186	△ 77,248	2,062
翌年度繰越支払資金	533,088	528,693	4,395
支出の部合計	3,236,392	3,159,344	77,048

注記：予備費10,000千円の内 6,057千円を使用した。

第2表

## 資金収支内訳表

平成30年4月1日から

平成31年3月31日まで

## 収入の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
学生生徒等納付金収入		663,253	415,349	36,993
手数料収入		7,886	27,321	210
寄付金収入		2,760	7,383	0
補助金収入		97,145	276,462	44,687
国庫補助金収入		96,948	304	0
地方公共団体補助金収入		197	276,158	44,687
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入		302	0	5,785
受取利息・配当金収入		12,334	9,666	1,098
雑収入		56,247	31,174	0
借入金等収入		0	600,000	0
計		839,927	1,367,353	88,773

## 支出の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
人件費支出		584,359	458,273	78,747
教育研究経費支出		166,221	114,996	17,900
管理経費支出		108,091	23,732	882
借入金等利息支出		0	2,378	0
借入金等返済支出		0	35,530	0
施設関係支出		593	841,975	518
設備関係支出		74,115	85,815	4,376
計		933,379	1,562,700	102,423

第3表			
		活動区分資金収支計算書	
		平成30年4月1日から 平成31年3月31日まで	
		(単位：千円)	
		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収 入	学生生徒等納付金収入	1,115,595
		手数料収入	35,417
		寄付金収入	22,173
		経常費等補助金収入	417,449
		付随事業収入	6,086
		雑収入	88,779
		教育活動資金収入計	1,685,499
	支 出	人件費支出	1,121,379
		教育研究経費支出	299,118
		管理経費支出	132,706
教育活動資金支出計		1,553,203	
	差 引	132,295	
	調整勘定等	△ 46,484	
	教育活動資金収支差額	85,812	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収 入	施設設備寄付金収入	1,330
		施設設備補助金収入	844
		施設設備売却収入	0
		減価償却引当特定資産取崩収入	250,000
		施設整備等活動資金収入計	252,174
	支 出	施設関係支出	843,086
		設備関係支出	164,306
		減価償却引当特定資産繰入支出	50,000
		施設整備等活動資金支出計	1,057,392
	差 引	△ 805,218	
	調整勘定等	77,987	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 727,231	
	小計（教育活動収支差額＋施設整備等活動収支差額）	△ 641,419	
その他の活動による資金収支	収 入	借入金等収入	600,000
		退職給与引当特定資産取崩収入	11,957
		預り金受入収入	21,807
		小計	633,764
		受取利息・配当金収入	38,514
		その他の活動資金収入計	672,278
	支 出	第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,669
		借入金等返済支出	35,530
		退職給与引当特定資産繰入支出	11,958
		預り金支払支出	21,579
		小計	70,736
		借入金等利息支出	2,378
		その他の活動資金支出計	73,114
	差 引	599,164	
	調整勘定等	△ 34	
	その他の活動資金収支差額	599,130	
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 42,289	
	前年度繰越支払資金	570,981	
	翌年度繰越支払資金	528,693	

第4表					
事業活動収支計算書					
平成30年4月1日から 平成31年3月31日まで					
(単位：千円)					
教育活動	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	1,122,674	1,115,595	7,079
		手数料	34,349	35,417	△ 1,068
		寄附金	23,382	22,620	762
		経常費等補助金	413,779	417,449	△ 3,670
		付随事業収入	6,289	6,086	203
		雑収入	78,184	89,328	△ 11,144
		教育活動収入計	1,678,657	1,686,496	△ 7,838
教育活動	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	1,117,572	1,119,662	△ 2,090
		内：退職給与引当	47,320	54,824	△ 7,504
		教育研究経費	501,318	433,230	68,088
		内：減価償却	133,757	133,628	129
		管理経費	158,419	138,069	20,350
		内：減価償却	5,396	5,359	37
		徴収不能額等	510	1,405	△ 895
		教育活動支出計	1,777,819	1,692,367	85,453
		教育活動収支差額	△ 99,162	△ 5,871	△ 93,291
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	36,470	38,514	△ 2,044
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	36,470	38,514	△ 2,044
教育活動外収支	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	2,378	2,378	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	2,378	2,378	0
		教育活動外収支差額	34,092	36,136	△ 2,044
		経常収支差額	△ 65,070	30,265	△ 95,335
特別収入の部	特別収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	540	4,792	△ 4,252
		特別収入計	540	4,792	△ 4,252
特別支出の部	特別支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	0	6,523	△ 6,523
		その他の特別支出	16,300	16,300	0
		特別支出計	16,300	22,823	△ 6,523
		特別収支差額	△ 15,760	△ 18,031	2,271
		[予備費]	0		0
		基本金組入前当年度収支差額	△ 80,830	12,235	△ 93,064
		基本金組入額合計	△ 235,994	△ 181,761	△ 54,233
		当年度収支差額	△ 316,824	△ 169,527	△ 147,297
		前年度繰越収支差額	△ 1,341,536	△ 1,341,536	0
		基本金取崩額	341	0	341
		翌年度繰越収支差額	△ 1,658,019	△ 1,511,063	△ 146,956
		(参考)			
		事業活動収入計	1,715,667	1,729,801	△ 14,134
		事業活動支出計	1,796,497	1,717,567	78,930

注記：予備費 5,000千円の全額を使用。また、印刷製本費(管)から什器用具費(管)へ1,504千円流用した。

第5表

## 事業活動収支内訳表

平成30年4月1日から

平成31年3月31日まで

(単位：千円)

科 目		部 門	学 校 法 人	滋 賀 短 期 大 学	滋 賀 短 期 大 学 附 属 高 等 学 校	滋 賀 短 期 大 学 附 属 幼 稚 園
教 育 活 動 収 支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	0	663,253	415,349	36,993
		手数料	0	7,886	27,320	210
		寄付金	13,360	1,928	7,213	120
		経常費等補助金	0	97,145	276,158	44,147
		付随事業収入	0	302	0	5,785
		雑収入	1,906	56,247	31,174	0
		教育活動収入計	15,266	826,761	757,214	87,255
	事業活動支出の部	人件費	33,438	550,565	456,282	79,376
		内退職給与引当金繰入額	203	51,117	2,874	630
		教育研究経費	0	231,922	177,497	23,811
		内減価償却額	0	65,490	62,347	5,791
		管理経費	43,300	67,627	26,259	883
		内減価償却額	207	2,644	2,508	0
		徴収不能額等	0	1,405	0	0
教育活動支出計	76,738	851,519	660,038	104,070		
<b>教育活動収支差額</b>			<b>△ 61,472</b>	<b>△ 24,758</b>	<b>97,176</b>	<b>△ 16,815</b>
教 育 活 動 外 収 支	取 事 業 の 活 動 部 動	受取利息・配当金	15,416	12,334	9,666	1,098
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	15,416	12,334	9,666	1,098
	支 事 業 の 活 動 部 動	借入金等利息	0	0	2,378	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	2,378	0
<b>教育活動外収支差額</b>			<b>15,416</b>	<b>12,334</b>	<b>7,288</b>	<b>1,098</b>
<b>経常収支差額</b>			<b>△ 46,056</b>	<b>△ 12,424</b>	<b>104,464</b>	<b>△ 15,717</b>
特 別 収 支	取 事 業 の 活 動 部 動	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	1,670	2,582	540
		特別収入計	0	1,670	2,582	540
	支 事 業 の 活 動 部 動	資産処分差額	0	3,993	2,476	55
		その他の特別支出	0	16,300	0	0
		特別支出計	0	20,293	2,477	55
<b>特別収支差額</b>			<b>0</b>	<b>△ 18,623</b>	<b>107</b>	<b>485</b>
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>			<b>△ 46,056</b>	<b>△ 31,047</b>	<b>104,570</b>	<b>△ 15,232</b>
<b>基本金組入額合計</b>			<b>0</b>	<b>△ 4,395</b>	<b>△ 174,598</b>	<b>△ 2,768</b>
<b>当年度収支差額</b>			<b>△ 46,056</b>	<b>△ 35,442</b>	<b>△ 70,028</b>	<b>△ 18,000</b>
(参考)						
事業活動収入計			30,682	840,765	769,462	88,893
事業活動支出計			76,738	871,812	664,892	104,125



第6表			
<b>貸借対照表</b>			
平成31年3月31日			
(単位 千円)			
<b>資産の部</b>			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,287,922	4,621,754	666,167
有形固定資産	3,880,726	3,016,227	864,499
特定資産	1,406,449	1,604,780	△ 198,331
その他の固定資産	746	747	△ 0
流動資産	626,080	675,219	△ 49,139
<b>資産の部合計</b>	<b>5,914,002</b>	<b>5,296,973</b>	<b>617,029</b>
<b>負債の部</b>			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	910,613	310,448	600,164
流動負債	319,502	314,871	4,631
<b>負債の部合計</b>	<b>1,230,115</b>	<b>625,319</b>	<b>604,796</b>
<b>純資産の部</b>			
科 目	本年度末	前年度末	増減
基本金	6,194,951	6,013,190	181,761
第1号基本金	5,709,899	5,529,807	180,092
第3号基本金	370,052	368,383	1,669
第4号基本金	115,000	115,000	0
繰越収支差額	△ 1,511,064	△ 1,341,536	△ 169,528
<b>純資産の部合計</b>	<b>4,683,887</b>	<b>4,671,654</b>	<b>12,233</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>5,914,002</b>	<b>5,296,973</b>	<b>617,029</b>

第7表		財 産 目 録		平成31年3月31日	
<b>I</b>	<b>資産総額</b>			<b>5,914,002</b>	<b>千円</b>
	内 基本財産			3,880,726	千円
	運用財産			2,033,275	千円
<b>II</b>	<b>負債総額</b>			<b>1,230,115</b>	<b>千円</b>
<b>III</b>	<b>正味財産</b>			<b>4,683,887</b>	<b>千円</b>
区 分		金 額			
<b>資産額</b>					
<b>1</b>	<b>基本財産</b>			<b>3,880,726</b>	<b>千円</b>
	土地	44,892	m <sup>2</sup>	369,348	千円
	建物	25,841	m <sup>2</sup>	2,600,407	千円
	図書	105,557	冊	278,411	千円
	教具・校具・備品等			442,379	千円
	構築物等			190,181	千円
<b>2</b>	<b>運用財産</b>			<b>2,033,275</b>	<b>千円</b>
	現金預金			528,693	千円
	積立金			1,406,449	千円
	その他			98,133	千円
<b>資産総額</b>				<b>5,914,002</b>	<b>千円</b>
<b>負債額</b>					
<b>1</b>	<b>固定負債</b>			<b>910,613</b>	<b>千円</b>
	長期借入金			613,870	千円
	その他			296,743	千円
<b>2</b>	<b>流動負債</b>			<b>319,502</b>	<b>千円</b>
	短期借入金			13,870	千円
	その他			305,632	千円
<b>負債総額</b>				<b>1,230,115</b>	<b>千円</b>
<b>正味財産 (資産総額 - 負債総額)</b>				<b>4,683,887</b>	<b>千円</b>

## V 監査報告書

### ・学園監事監査報告書

令和元年5月27日

## 監 査 報 告 書

学校法人 純美禮学園  
理 事 会 御中  
評 議 員 会 御中

学校法人 純美禮学園

監 事 東 清 信 

監 事 山 中 隆 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人純美禮学園寄附行為第14条の規定に基づき、学校法人純美禮学園の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の学校法人の業務の状況及び財産の状況について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法の概要

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席したほか、理事・法人本部事務局等から業務の執行状況を聴取するとともに関係資料を閲覧し、業務及び財産の状況を監査しました。また、公認会計士山本智三氏並びに香本明彦氏の兩人から監査状況の報告を受けるとともに、それらを参考として計算書類等に検討を加えました。

#### 2. 監査の結果

- (1) 学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 学校法人の財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録等及び事業報告書は、法令及び寄附行為に従い正しく示しているものと認めます。

以 上

## ・公認会計士監査報告書

### 独立監査人の監査報告書

令和元年6月5日

学校法人 純美禮学園  
理事会 御中

公認会計士山本智三事務所

公認会計士 山本智三 

公認会計士香本明彦事務所

公認会計士 香本明彦 

私たちは、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づく監査報告を行うため、平成27年3月30日付け文部科学省告示第73号に基づき、学校法人純美禮学園の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 計算書類に対する理事者の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正または誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正または誤謬による計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちはリスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

私たちは、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人純美禮学園の平成31年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

学校法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

【参 考】

・「学生・生徒・園児数」 <令和元年5月1日 現在>

◇滋賀短期大学

学 科 \ 年 次	1	2	計
生 活 学 科	53	56	109
幼児教育保育学科	102	128	230
ビジネスコミュニケーション学科	111	99	210
計	266	283	549

◇滋賀短期大学附属高等学校

科 \ 学 年	1	2	3	計
普 通 科	177	210	169	556
人間総合科(3年) (生活デザイン科)	50	47	47	144
計	227	257	216	700

◇滋賀短期大学附属幼稚園

	3歳児	4歳児	5歳児	計
園 児 数	53	46	40	139